

CD/DVD プレーヤー

DVP-F11

取扱説明書

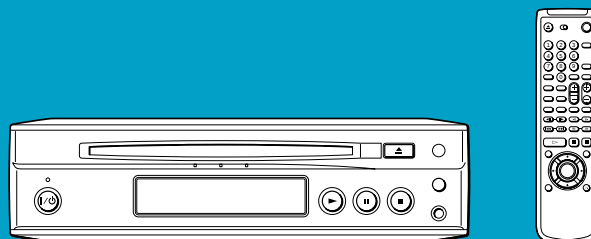
お買い上げいただきありがとうございます。

⚠ 警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



**警告**

安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

4～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。10ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

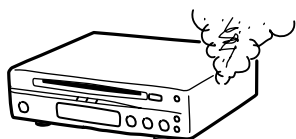
設置時や1年に1度は、ACパワーアダプターや電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりさし込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットやACパワーアダプター、電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口へ修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口へ修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指挟み

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



強制



プラグをコンセントから抜く

目次

安全のために	2
△ 警告・△ 注意	4
電池についての安全上のご注意	7
この取扱説明書の使いかた	8
再生できるディスクについて	8
使用上のご注意	10
ディスクの取り扱い上のご注意	10

設置と準備	11
付属品を確認する	11
テレビとつなぐ	13
アンプとつなぐ	15
2.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ	17
5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ	18

再生する	20
ディスクを再生する	20
再生中に見たいところや聞きたいところを さがす	22
再生を止めたあと、そのつづきから再生する (リジューム再生)	23
DVDのメニューを使う	24
プレイバックコントロール機能を使う (PBC再生)	25
表示窓の見かた	26

コントロールメニューでいろいろな 機能を使う	28
コントロールメニューを使う	28
コントロールメニュー画面項目一覧	30
再生するタイトル/チャプター/トラック/ インデックス/シーンを選ぶ	31
経過時間と残り時間を見る	32
タイムコードを使って場面を探す	32
ディスクの情報を見る	33
音声を切り換える	34
字幕を表示する	35

アングルを切り換える	36
デジタルシネマサウンドの設定をする	37
好きな順に再生する(プログラム再生)	38
順不同に再生する(シャッフル再生)	40
繰り返し再生する(リピート再生)	41
再生したい部分だけを繰り返す (A↔Bリピート)	42
再生の情報を見る	43

設定と調整	44
設定画面での設定/調整のしかた	44
設定画面項目一覧表	46
表示言語や音声言語の設定(言語設定)	47
画像に関する設定(画面設定)	48
視聴に関する設定(視聴設定)	49
音声に関する設定(オーディオ設定)	51
スピーカーの設定をする(スピーカー設定)	53
付属のリモコンでテレビやアンプを操作する	54

その他	56
故障かな?と思ったら	56
保証書とアフターサービス	59
自己診断機能について(アルファベットで 始まる表示が出たら)	60
主な仕様	61
用語解説	62
言語コード一覧表	63
各部のなまえ	64
索引	67

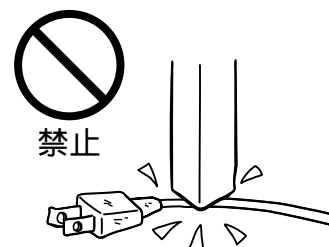


下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源プラグを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。

- ➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、ACパワーアダプターや電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

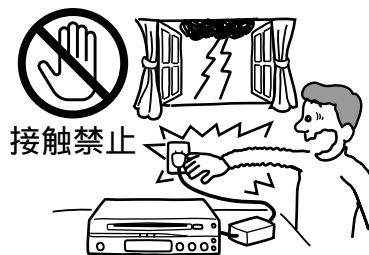
火災や感電、けがの原因となることがあります。

- ➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに
触れない

感電の原因となります。



本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電
圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

また、コンセントの定格を越えて使用しないでください。



指定以外のACパワーアダプターを使わない

破裂や液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因
となります。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり
周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

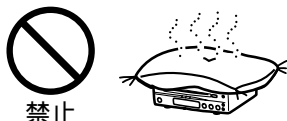
ぬれた手でACパワーアダプターや電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くとときにご注意ください。

→呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



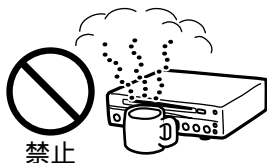
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



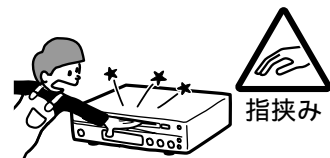
ディスクスロットの前に物を置かない

ディスクが出る際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。



幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようご注意ください。



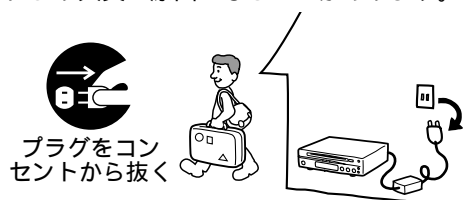
コード類は正しく配置する

ACパワーアダプターや電源コード、AVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



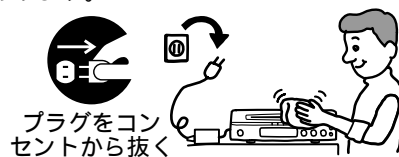
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のためACパワーアダプターや電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、ACパワーアダプターや電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての 安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



接触禁止



必ず次の処理をする

→液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



強制



→液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止



⚠ 注意

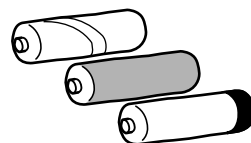
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→電池の品番を確かめ、お使いください。



禁止



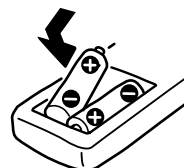
+ と - の向きを正しく入れる

+ と - を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



強制

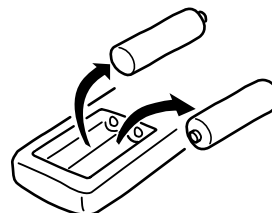


使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



強制



この取扱説明書の使いかた

- ・「設置と準備」(11～19ページ)をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- ・基本的な使いかたは、「再生する」(20～27ページ)をご覧ください。
- ・さらに進んだ使いかたについては、28ページ以降をご覧ください。
- ・この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。
	DVDビデオで使える機能です。
	ビデオCDで使える機能です。
	音楽用CDで使える機能です。

再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

ディスクの種類	DVDビデオ		ビデオCD		音楽用CD	
ディスクに付いているマーク(ロゴ)						
記録しているもの	音声 + 映像		音声 + 映像		音声	
ディスクの大きさ	12cm	8cm	12cm	8cm	12cm	8cm (CDシングル)
最長再生時間	約4時間(片面) 約8時間(両面)	約80分(片面) 約160分(両面)	74分	20分	74分	20分

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

本機はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式(PAL、SECAM)対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号(リージョンコード)について

DVDには²のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または^{ALL}の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

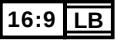
DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

再生できるディスクについて

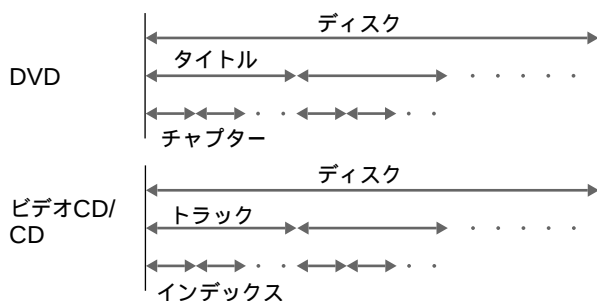
DVDに表示されているマークの説明

DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。それぞれのマークはそのディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。ただしそれらの機能が使えても、以下のマークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
	音声のトラック数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングル数を表します。
	選択可能な画像アスペクト比を表します。
	再生可能な地域番号を表します。

ディスクに関する用語の説明

- ・タイトル
DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚(あるいは1曲)にあたります。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号といいます。
- ・チャプター
DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。
- ・トラック
ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り(1曲分)をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。



- ・インデックス(CD)/ビデオインデックス(ビデオCD)
ビデオCDおよびCDで、再生したい部分を見つけやすいように1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。
- ・シーン
PBC対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンと言います。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号と言います。

PBC(プレイバックコントロール)について(ビデオCD)

本機は、PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)にも対応しています。(PBCとは、Playback Controlの略です。)ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しめかた
PBC対応でないビデオCD(バージョン1.1)	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像(動画)を再生できます。
PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)	上記(PBC対応でない場合)の楽しめかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面(選択画面)を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます(PBC再生、25ページ)。また、高精細の静止画も再生できます。

本機で再生できないディスクについて

本機では次のディスクを再生することはできません。

- ・CD-ROM(PHOTO CDを含む)
- ・CD-R
- ・CD-EXTRAのデータ部分
- ・DVD-ROM
- ・DVDオーディオ
- ・スーパーオーディオCDのHD(ハイデンシティ)レイヤーなど

DTS*で記録されたCDを再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVDプレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™の再生をお楽しみいただくには、DVDプレーヤーのデジタル出力に5.1チャンネルの外部DTS Digital Surround™デコーダーを接続する必要があります。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバーシエンジンアリングまたは分解は禁止されています。

* Digital Theater Systems, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

電源について

本機は交流100Vの電源専用です。自動車の電源での使用については、動作の保証をしません。

音量を調節するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きましょう。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておい

てください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

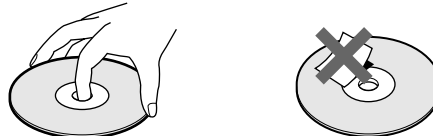
残像現象(画像の焼きつき)のご注意

DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象(画像の焼きつき)を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象(画像の焼きつき)が起こりやすいのでご注意ください。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。



保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

本機でお使いいただける音楽CDは円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状(星形、ハート型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

設置と準備

この章では本機とテレビやアンプとの接続のしかたを説明します。なお、本機は映像入力端子がないテレビには接続できません。接続するときは、機器の電源を必ず切ってください。

付属品を確認する

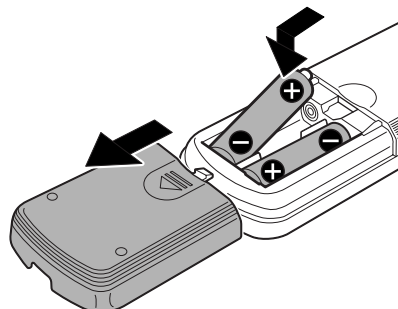
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- 映像音声コード
(ピンプラグ×3 ↔ ピンプラグ×3)(1)
- S映像コード(1)
- ACパワーアダプター AC-F11(1)
- 電源コード(1)
- リモコン RMT-D109J(1)
- 単3形乾電池(R6)(2)
- ソニーご相談窓口のご案内(1)
- 保証書(1)

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池(R6、付属)2個を入れる。



 リモコンでテレビやAVアンプを操作できます。
54ページをご覧ください。

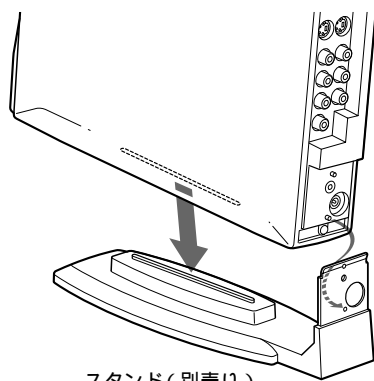
ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
 - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
 - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
 - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

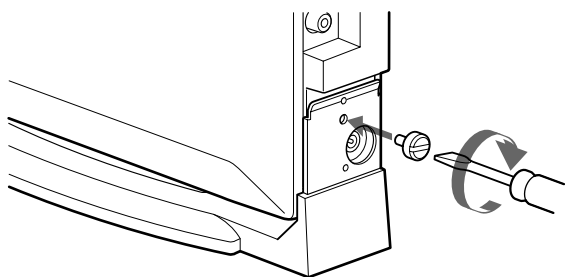
縦に置く

別売りのスタンドSU-SF11に取り付けると、本機を縦に置くことができます。

- 1 本機側面の溝とスタンドの突起部を合わせて、本機をスタンドに載せる。



- 2 スタンドに付属のネジで、スタンドを固定する。



ご注意

- 横置きにするときは、スタンドを取り外してください。
- 本機を移動するときは、プレーヤー本体を持ってください。スタンドを持つと、スタンドが破損することがあります。
- スタンドを取り付けずに、プレーヤー本体を縦に置かないでください。プレーヤー本体が安定しないため、倒れることがあります。

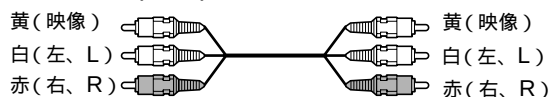
テレビとつなぐ

テレビのスピーカーから音を出すとき(2ch・左右のスピーカーで音を出すとき)の接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

この接続の場合は、スピーカー設定画面の「サブウーファー」を「なし」に設定します。詳しくは53ページをご覧ください。

必要な接続コード

映像音声コード(付属)



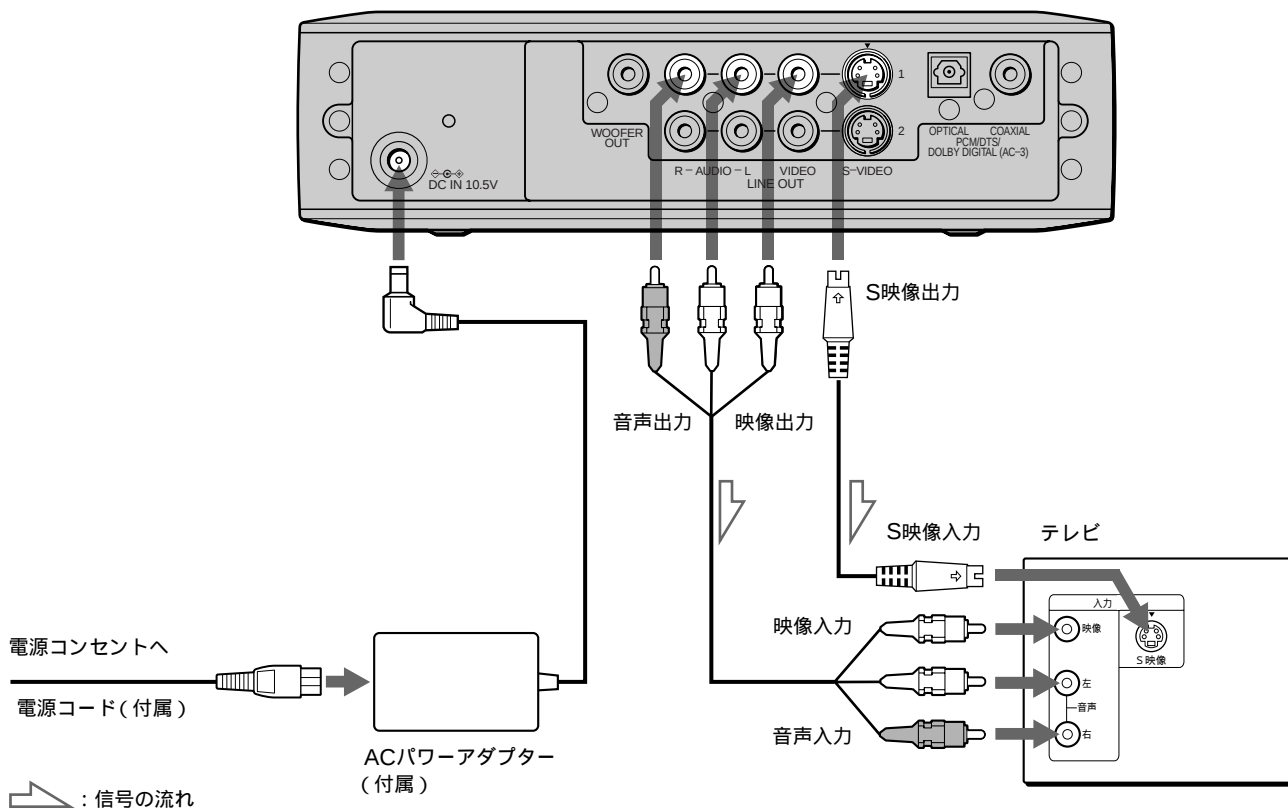
S映像コード(付属)



黄(映像)端子に黄プラグを、白(左、L)端子には白プラグを、赤(右、R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

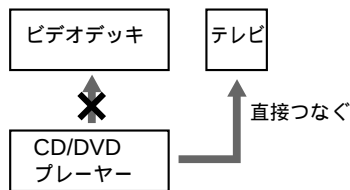
S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、黄色の映像コードでつなぐ代わりに、S映像コード(付属)を使ってつなぎます。さらに鮮明な映像が楽しめます。

CD/DVDプレーヤー



ご注意

- 右記のようにビデオデッキを経由して本機の映像をテレビで見ようとする、画像が乱れることがあります。本機とビデオデッキは接続しないでください。
- テレビやアンプによっては音声出力のレベルが高く、音が歪むことがあります。そのときは設定画面の「オーディオ設定」から「オーディオ ATT」を選んで「入」にしてください。詳しくは51ページをご覧ください。



ACパワーアダプターについて

本機には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

使う前に必要な設定をする

接続した機器に合わせて、CD/DVDプレーヤーの設定をします。また、画像や音声についての設定も主に設定画面を使って行います。詳しくは44ページをご覧ください。

- ワイドテレビまたはワイドモード機能付きのテレビとつないだとき
設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「16:9」にする。お買い上げ時は「16:9」に設定されています。
- 通常のテレビとつないだとき
設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」にする（48ページ）。

その他、画像や音声についての設定は主に設定画面を使って行います。詳しくは44ページをご覧ください。

アンプとつなぐ

アンプにつないだスピーカーから音を出すとき(2ch・左右のスピーカーで音を出すとき)の接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

この接続の場合は、スピーカー設定画面の「サブウーファー」を「なし」に設定します。詳しくは53ページをご覧ください。

💡 フロントスピーカー(左右)しかつないでいないときもサラウンド音声を楽しめます(VES: パーチャル エンハンスド サラウンド)

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカーのみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。詳しくは37ページをご覧ください。

必要な接続コード

音声コード(別売り)

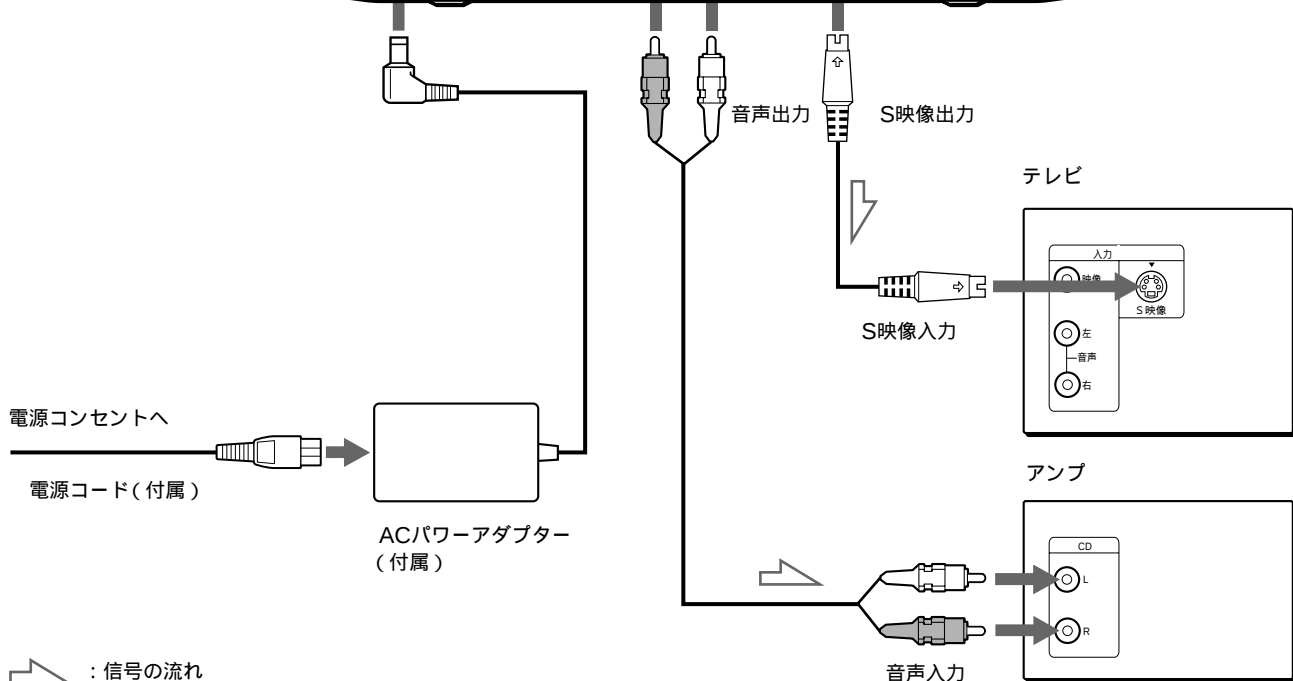
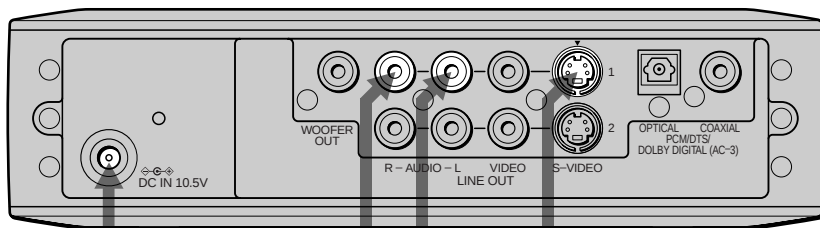
白(左、L) 赤(右、R)

S映像コード(付属)



白(左、L)端子には白プラグを、赤(右、R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

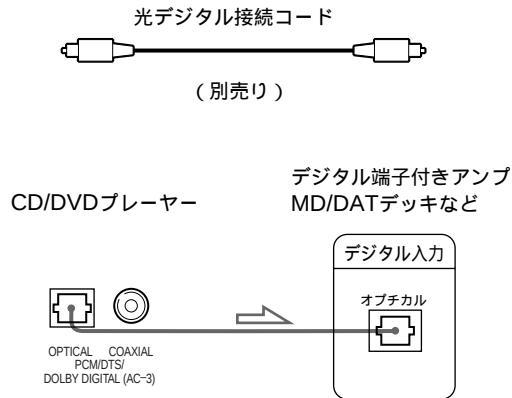
CD/DVDプレーヤー



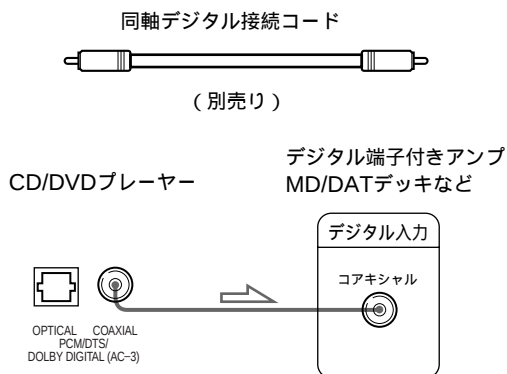
デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキにつなぐときは

オーディオ用光デジタル接続コード(別売り)またはオーディオ用同軸デジタル接続コード(別売り)を使います。

■ 光デジタル接続コードを使うとき



■ 同軸デジタル接続コードを使うとき



ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ドルビーデジタル方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。

この接続をしたときは「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「DTS」を「入」にしないでください。突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

💡 DTSデコーダーやドルビーデジタルデコーダー付きのオーディオ機器につなぐときはオーディオ用光デジタル接続コード(別売り)またはオーディオ用同軸デジタル接続コード(別売り)を使います。接続のしかたは、18ページをご覧ください。

使う前に必要な設定をする

接続した機器に合わせて、CD/DVDプレーヤーの設定をします。また、画像や音声についての設定も主に設定画面を使って行います。詳しくは44ページをご覧ください。

- ドルビーデジタル対応でないデジタルアンプにつないで音を出すとき/MDやDATなどのデジタル機器に出力するとき
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にし、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に、「DTS」を「切」にします。これはお買い上げ時の設定です。

2.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

テレビの左右のスピーカー、またはアンプにつないだスピーカーから音を出す場合に、さらにサブウーファーをつないで、豊かな低音を楽しむ場合の接続です。

接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

この接続の場合は、スピーカー設定画面の「サブウーファー」を「あり」に設定し、「フロントスピーカーサイズ」を、テレビのスピーカーを使用する場合は「テレビ」に、アンプにつないだスピーカーの場合はスピーカーの大きさに合わせて「大」、「中」、「小」に設定します。詳しくは53ページをご覧ください。

💡 フロントスピーカー（左右）しかつないでいないときもサラウンド音声を楽しめます（VES：パーチャル エンハンスト サラウンド）

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカーのみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。詳しくは37ページをご覧ください。

必要な接続コード

音声コード（別売り）

白（左、L） 赤（右、R）

S映像コード（付属）

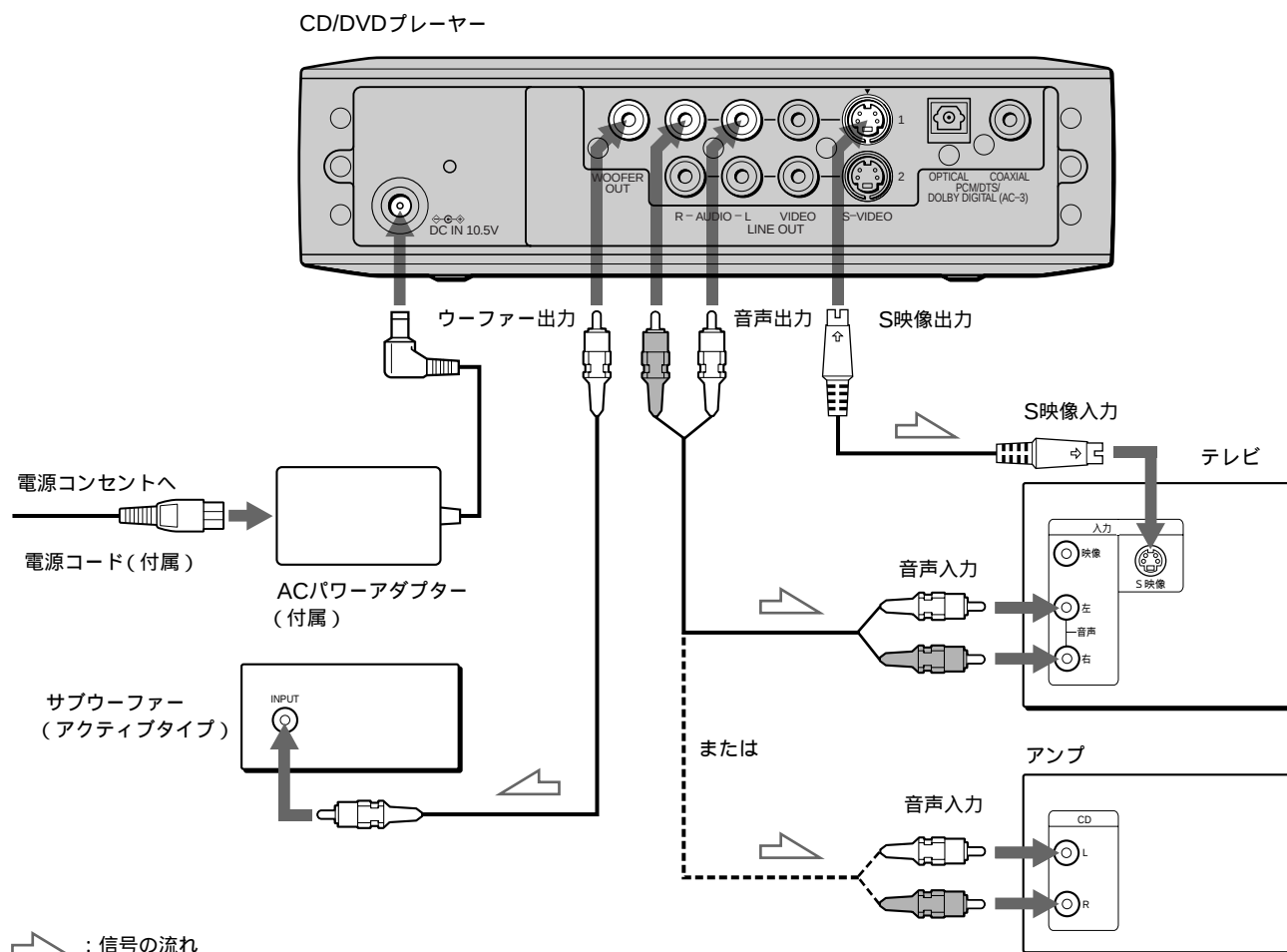


白（左、L）端子には白プラグを、赤（右、R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

モノラル音声コード（別売り）

サブウーファー接続用

黒



5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

DVDにはドルビー*デジタル方式で音声記録されているものがあります。ドルビーデジタル方式では、最大5.1chの信号が記録されており、デジタル端子(オプティカルまたはコネクシカル)付きのアンプとスピーカーを5(+1)個用意すれば、劇場のような臨場感をご家庭でお楽しみいただけます。

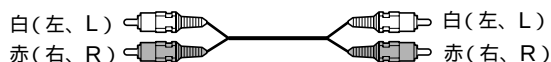
(+1)はサブウーファースを意味します。

さらに本機では、ソニーが開発したDCS(デジタルシネマサウンド)方式を使ったVES(バーチャルエンハンスドサウンド)の機能により、フロントスピーカーしかなくてもサラウンド効果を楽しめます。VESについて詳しくは、37ページをご覧ください。

必要な接続コード

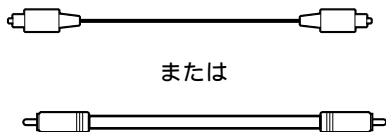
音声コード(別売り:1本)

LINE OUT(AUDIO 1、2) 端子につなぎます。



光デジタル接続コードまたは同軸デジタル接続コード(別売り:1本)

OPTICAL端子またはCOAXIAL端子につなぎます。



S映像コード(付属:1本)

S-VIDEO端子につなぎます。



接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 接続コードの赤いプラグはオーディオR(右)端子へ、白いプラグはオーディオL(左)端子へつなぎます。

使う前に必要な設定をする

接続した機器に合わせて、CD/DVDプレーヤーの設定をします。また、画像や音声についての設定も主に設定画面またはコントロールメニュー画面を使って行います。設定画面については44ページをご覧ください。

- DTSフォーマットで記録されたDVDを再生するとき
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にし、「DTS」を「入」に設定しておきます(53ページ)。
- ドルビーデジタルフォーマットで記録されたDVDを再生するとき
設定画面の「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」を「入」にし、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定しておきます(52ページ)。

ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- DTSデコーダー付きのオーディオ機器をつながないときは、「DTS」を「入」にしないでください。
- ドルビーデジタルデコーダー付きのオーディオ機器をつながないときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にしないでください。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
「Dolby」、「Pro Logic」、「AC-3」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



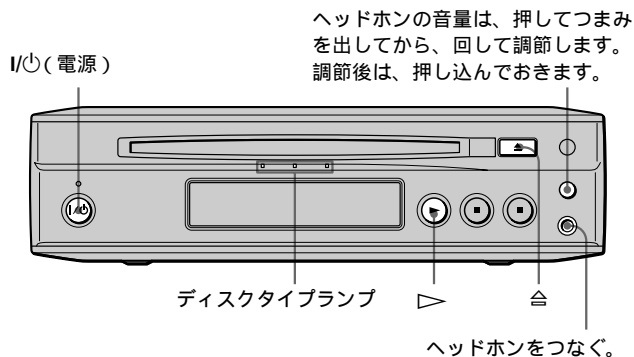
再生する

この章では、DVD、CD、VIDEO CDの再生のしかたを説明します。

ディスクを再生する

DVD VIDEO CD

ディスクによっては、異なる操作や禁止されている操作がありますので、再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。



1 テレビの準備は

テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えでCD/DVDプレーヤーの画像が映るようにします。

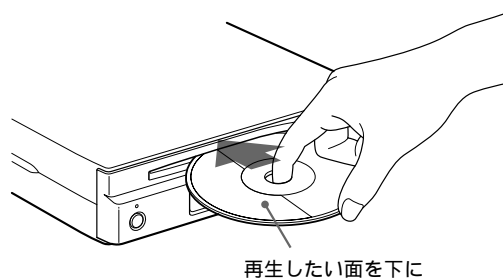
アンプをつないでスピーカーから音を出すときはアンプの電源を入れ、アンプの入力切り換えでCD/DVDプレーヤーの音声が聞こえるようにします。

2 I/⏻ (電源) スイッチを押して電源を入れる。

I/⏻ (電源) スイッチのランプ (赤) が緑に変わり、表示窓が点灯します。

3 ディスクを入れる。

入れたディスクの種類を示すディスクタイプランプが点灯します。



4 ▶を押す。

再生が始まります (ふつうの再生)。テレビまたはアンプで音量を調節します。

手順4の後に

■ DVDを再生しているとき

DVDによっては手順4でタイトルメニューやDVDメニューが表示される場合があります。詳しくは24ページをご覧ください。

■ VIDEO CDを再生しているとき

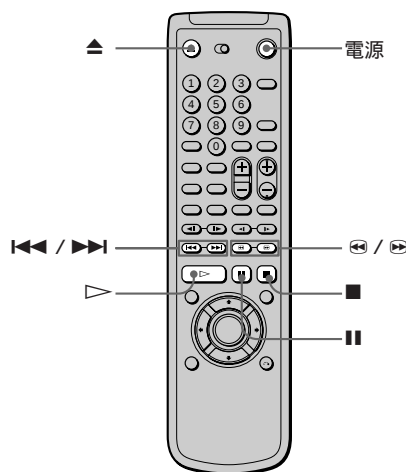
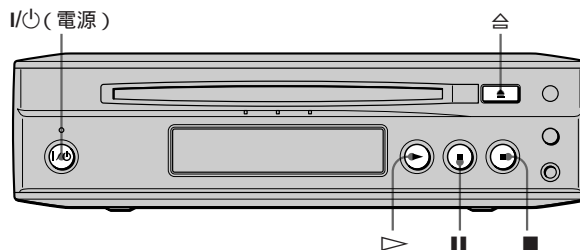
ビデオCDによっては手順4でテレビ画面にメニューが表示される場合があります。そのときは、表示されたメニュー画面(選択画面)を使って、対話形式で再生していきます(PBC再生)。PBC再生の操作のしかたについては、25ページをご覧ください。

 リモコンでも電源を入れることができます。

本体前面のI/⏻(電源)スイッチのランプが赤く点灯しているとき、電源ボタンを押します。

ご注意

- 停止中、または一時停止中、15分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスクリーンセーバーが作動します。▷を押すとスクリーンセーバーが消えます。
- I/⏻(電源)スイッチのランプは電源を切っているとき赤く点灯しています。
- ディスクを再生していないときに30分以上本体やリモコンを操作しないと自動的に電源が切れます。(オートパワーオフ機能)
- 8cmディスクを入れるときは、ディスク挿入口の中央にまっすぐ、ゆっくりと挿入してください。ディスクが取り出せないときは、お近くのソニーサービス窓口にお問い合わせください。
- 新しいディスクの中には、ディスクの縁から接着剤がはみ出しているものがあります。このようなディスクをプレーヤーに入れようとしても、ディスク挿入口で詰まることがあります。プレーヤーに入れる前に、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁を軽くこすり、はみ出した接着剤を伸ばしてください。このとき、ディスクの再生面を触らないように注意してください。接着剤のべとつきが少なくなったら、プレーヤーにディスクを入れてください。
- 新しいディスクの中には、ディスクの縁がギザギザしているものがあります。このような場合は、ペンや鉛筆の側面でディスクの縁をこすり、ギザギザをなくしてください。縁にギザギザがあるディスクを使うと、プレーヤーに正しく挿入されないことや、プラスチックの破片がディスクの再生面に付着し、音とびの原因となることがあります。
- 本機では、8cmCDをアダプターを使わずに再生できます。8cmCDにシングルアダプターをつけてディスクを再生すると、故障の原因となることがあります。



再生する

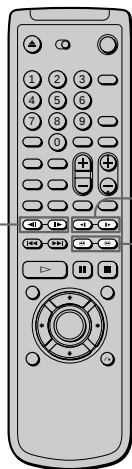
こんなときは	こうする
止める	■を押す。
途中で止める	⏸を押す。
途中で止めたあと、つづきを再生する	⏭または▷を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	リモコンの⏭を押す。
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	リモコンの⏮を押す。
再生中に画面を見ながら探す(スキャン)	リモコンの⏏または⏏を押す。 通常の再生に戻したいところで▷を押す。
ディスクを取り出す	▲

コントロールメニュー画面で設定して、プログラム再生などいろいろな再生が楽しめます。コントロールメニュー画面の操作については、28ページをご覧ください。

再生中に見たいところや聞きたいところをさがす

**DVD****VIDEO
CD****CD**

画面を見ながら早送りや巻き戻して見たい場面をさがしたり、スロー再生やコマ送りをすることができます。



ご注意

DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

コマ送り再生する **DVD** **VIDEO CD**

再生中に◀◻◻または◻◻▶を押します。▶を押すと普通の再生に戻ります。

ご注意

CDのコマ送り再生はできません。

早送り / 早戻しをしてさがす(スピードスキャン)

再生中に◻◻または◻◻▶を押します。見たいところや聞きたいところになったら、▶を押すと普通の再生に戻ります。

◻◻を押すたびに、逆方向の早戻し1◻◻または早戻し2◻◻に切り換わります。

◻◻▶を押すたびに、再生方向の早送り1◻◻▶または早送り2◻◻▶に切り換わります。

早戻し1◻◻/早送り1◻◻より、早戻し2◻◻/早送り2◻◻のほうが、高速で再生します。

スロー再生する **DVD** **VIDEO CD**

再生中に◻◻または◻▶を押します。見たいところや聞きたいところになったら、▶を押すと普通の再生に戻ります。

◻◻を押すたびに、逆方向のスロー1◻◻またはスロー2◻◻に切り換わります(DVDのみ)。

◻▶を押すたびに、再生方向のスロー1◻▶またはスロー2◻▶に切り換わります。

スロー1◻◻/スロー1◻▶より、スロー2◻◻/スロー2◻▶のほうが、ゆっくり再生します。

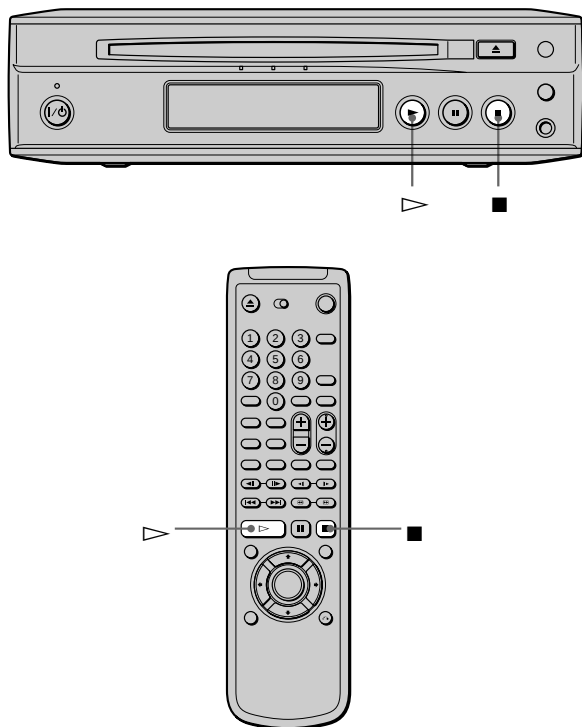
ご注意

CDのスロー再生はできません。

再生を止めたあと、そのつづきから再生する(リジューム再生)

DVD VIDEO CD CD

再生を止めたあと、表示窓に「RESUME」が表示されると、本機が再生を止めた場所を覚えています。このときは、そのつづきから再生できます。ディスクを取り出さない限り、リジューム再生は電源を切っても使えます。



ご注意

- DVDによってはリジューム再生ができない場合があります。
- シャッフルまたはプログラム再生ではできません。
- 再生を止めた場所によっては、つづきからの再生がずれて始まる場合があります。
- 次のときには場所の記憶は消えます。
 - － ディスクを取り出したとき
 - － 電源コードを抜いたとき
 - － 再生モードを変えたとき
 - － タイトルやチャプター、トラックを選んでから、再生を始めたとき
 - － 設定画面の「視聴設定」の「視聴年齢制限」の設定を変更したとき
 - － DVD再生中に設定画面の「言語設定」の「音声言語」、「DVDメニュー言語」、「字幕言語」の設定を変更したとき

再生する

- 1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。
表示窓に「RESUME」と表示されます。また、テレビ画面には「次に再生するときは今のつづきから再生します」と表示されます。

「RESUME」が表示されないときは
リジューム再生はできません。

- 2 ▷を押す。
手順1で再生を止めた場所から、再生が始まります。

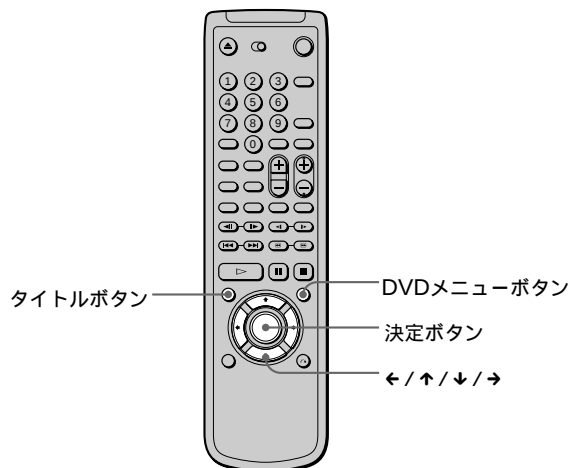
💡 ディスクを最初から再生したいときは
停止中に再生時間が表示されているとき、■を押して再生時間表示を消してから、▷を押します。

DVDのメニューを使う DVD

再生する

操作する(タイトルメニュー)

DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これをタイトルといいます。このようなDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。



- 1 タイトル/TITLEボタンを押す。
タイトルメニューが表示されます。
- 2 再生したいタイトルを←/↑/↓/→で選ぶ。
(DVDによってはリモコンの数字ボタンでタイトルを選べるものもあります。)
- 3 決定ボタンを押す。
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意

- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。
- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示しているものがあります。また決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示しているものがあります。

ディスクの内容を選ぶ(DVDメニュー)

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。

- 1 DVDメニューボタンを押す。
DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDにより異なります。
- 2 選みたい項目を←/↑/↓/→で選ぶ。
(DVDによってはリモコンの数字ボタンで項目を選べるものもあります。)
- 3 別の項目を変更したいときは、手順2を繰り返す。
- 4 決定ボタンを押す。

 DVDメニューで表示される言語を変えるときは設定画面の「言語設定」で変更できます。詳しくは47ページをご覧ください。

ご注意

DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示しているものがあります。

プレイバックコントロール機能を使う(PBC再生)

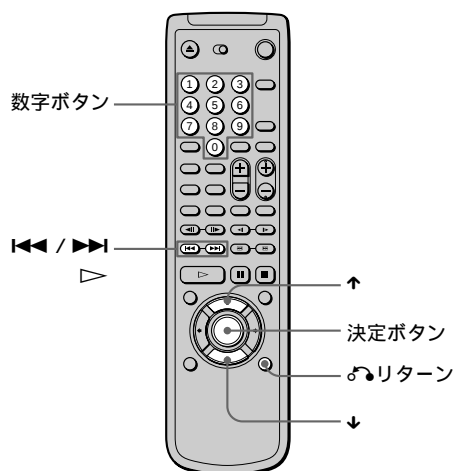


VIDEO
CD

PBC対応ビデオCD(バージョン2.0)では、PBC(プレイバックコントロール)機能を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを楽しめます。

PBC再生とは、PBC機能でテレビ画面に表示される選択用のメニュー画面を使って、対話形式で再生を進めていくことです。

本機では、数字ボタンと、決定、◀▶、⏮、⏭、⏪、⏩、リターン、↑/↓ボタンを使って、PBC再生を進めていきます。操作の方法はビデオCDによっても異なることがありますので、ビデオCDに付属の説明書をご覧ください。



選択用のメニュー画面に戻るには

一般的なPBC対応ビデオCDでは、⏮リターンまたは◀▶のいずれかのボタンを押す。



PBC機能を使わないで再生するときは次の2つの方法があります。

- 停止中、◀▶または⏮を押して再生したいトラックを選んでから▶または決定ボタンを押す。
- 停止中、リモコンの数字ボタンで再生したいトラック番号を押してから▶または決定ボタンを押す。

画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、ふつうの再生(トラック番号順に再生)が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。

PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▶を押して再生を始めます。

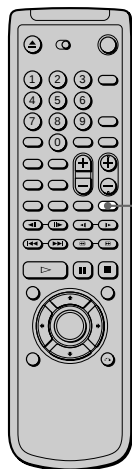
ご注意

ビデオCDによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示しているものがあります。

- 1 「ディスクを再生する」(20ページ)の手順1から手順4を行って、PBC対応ビデオCDの再生を始める。
- 2 選択用のメニュー画面の中で行いたい(再生したい)項目の番号を選ぶ。
↑/↓ボタンで項目の番号に合わせるか、数字ボタンで項目の番号の数字ボタンを押します。
- 3 決定ボタンを押す。
- 4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、対話形式で再生を進める。

表示窓の見かた DVD VIDEO CD CD

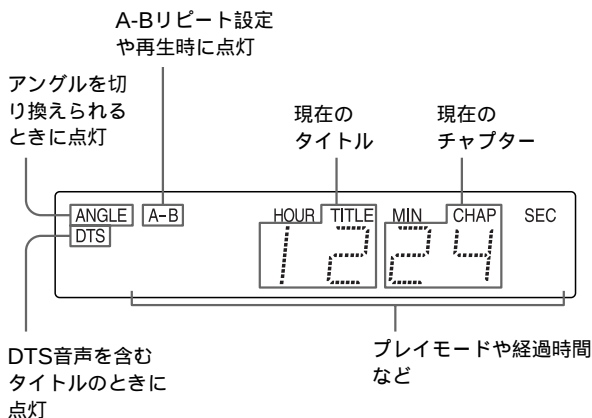
表示窓を使って、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、CD/ビデオCDの全トラック数などを調べることができます。



時間 / テキストボタン

DVDを再生中のとき DVD

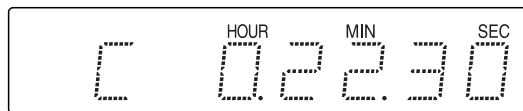
再生中の表示窓



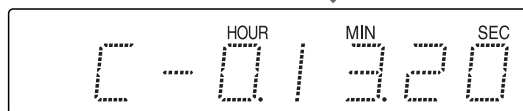
再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間 / テキストボタンを押す。
押すたびに再生中のタイトルまたはチャプターの残り時間などが次のように表示されます。

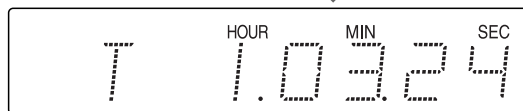
再生中のチャプターの経過時間



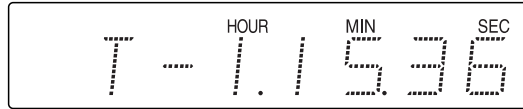
再生中のチャプターの残り時間



再生中のタイトルの経過時間



再生中のタイトルの残り時間



テキスト



再生中のタイトル番号と
チャプター番号



自動的に戻る

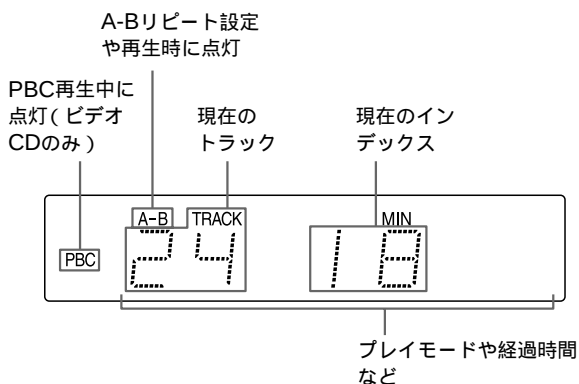
ご注意

- DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示窓の表示を変えられない場合があります。
- シャッフル再生、プログラム再生をしているときは、タイトル経過時間、タイトルの残り時間は表示されません。

CD/ビデオCDを再生中のとき



再生中の表示窓

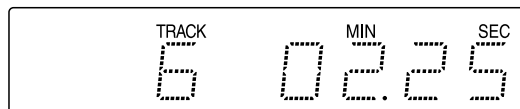


💡 ビデオCDでPBC再生しているときはトラック番号、インデックス番号の代わりに再生中のシーン番号が表示されます。このとき時間/テキストボタンを押しても表示窓は変化しません。
ディスクにCDテキストが記録されていれば、時間/テキストボタンを押したときにCDテキストが表示窓に表示されます。CDテキストについて、詳しくは33ページをご覧ください。

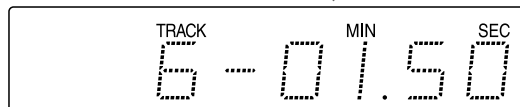
再生の残り時間を調べる

再生中、時間/テキストボタンを押す。
押すたびに再生中のトラックまたはディスク全体の残り時間などが次のように表示されます。

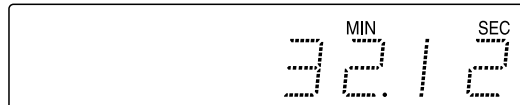
再生中のトラックの経過時間



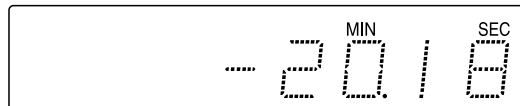
再生中のトラックの残り時間



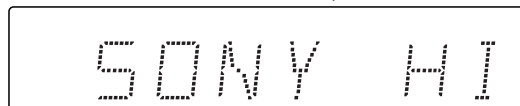
ディスク経過時間



ディスク全体の残り時間



テキスト



再生中のトラック番号
とインデックス番号



自動的に戻る

再生する

ご注意

シャッフル再生、プログラム再生およびビデオCDのPBC再生をしているときは、ディスク経過時間、ディスク全体の残り時間は表示されません。

コントロールメニューでいろいろな機能を使う

ここではコントロールメニュー画面を使ったいろいろな再生のしかたや、便利な機能の使いかたを説明します。

コントロールメニューを使う

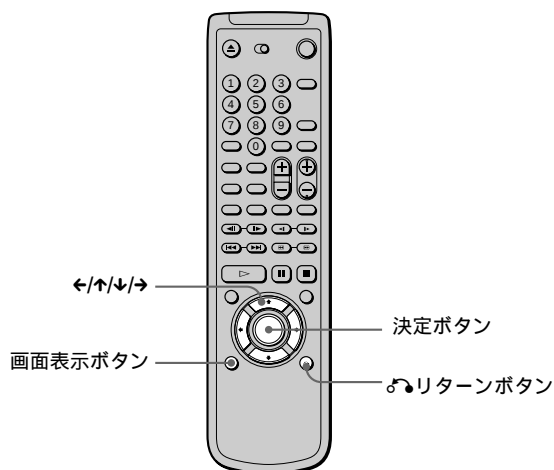


DVD

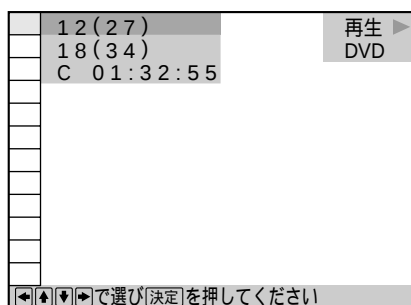
VIDEO
CD

CD

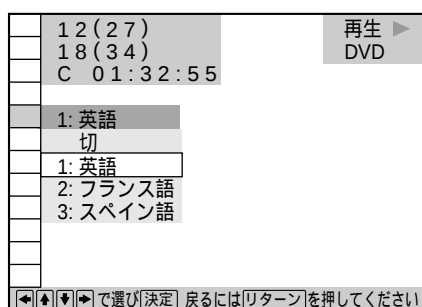
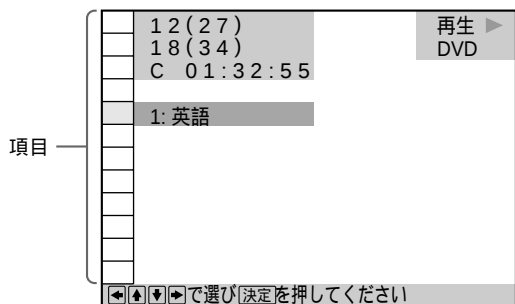
コントロールメニュー画面を使って映像や曲を探したり、好みの順で再生したり、アングルを変えたり、デジタルシネマサウンドの設定をしたりできます。コントロールメニューの項目はディスクによって異なります。コントロールメニューのそれぞれの項目について詳しくは、30～43ページをご覧ください。



- 1 画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が出る。



2 ↓/↑で 項目を選んで、→ または決定ボタンを押す。



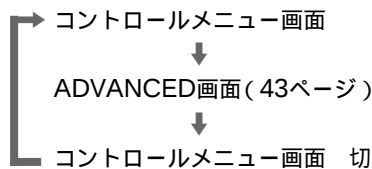
ご注意

コントロールメニュー画面の項目には、その中で項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの各項目の説明に記されている参照ページをご覧ください。

コントロールメニュー画面の設定を途中でやめるには
 ⏮ リターンボタンを押します。

表示されていない他の項目を表示させるには

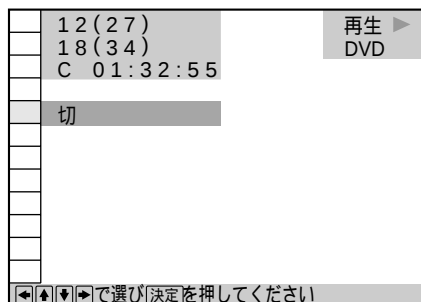
画面表示ボタンを押すたびに、コントロールメニュー画面は次のようになります。



💡 リモコンを使って表示できる項目もあります

いくつかの項目はリモコンのボタンを押すことで表示させることができます。この場合、選んだ項目だけが表示されます。リモコンを使った操作についてはそれぞれの項目の説明をご覧ください。

3 ↑/↓で項目を選んで、決定ボタンを押す。



コントロールメニュー画面項目一覧

TITLE タイトル(DVDのみ)(31ページ)

CHAPTER チャプター(DVDのみ)(31ページ)

TRACK トラック(ビデオCD/CDのみ)(31ページ)

INDEX インデックス(ビデオCD/CDのみ)(31ページ)

SCENE シーン(PBC再生時のビデオCDのみ)
(31ページ)

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探することができます。

TIME/TEXT タイム/テキスト(32、33ページ)

再生中のタイトル、チャプター、トラックの残り時間と、ディスク全体の残り時間を調べることができます。時間を入力して映像や曲を探することができます。ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。

AUDIO オーディオ(34ページ)

DVDの中には、複数の言語(マルチランゲージ)で音声記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、カラオケのビデオCDなどでは、音声を切り換えてボーカルのトラックを消せるものもあります(このときの音声はモノラルです)。

SUBTITLE サブタイトル(DVDのみ)(35ページ)

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は再生中であれば好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。

ANGLE アングル(DVDのみ)(36ページ)

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの(マルチアングル)があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分であれば好きなアングルに切り換えながら見るすることができます。

VES バーチャルエンハンスサラウンド(37ページ)

ドルビーデジタルサラウンドなどのマルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。フロントスピーカーしかつないでいないときでも、バーチャルエンハンスサラウンド(VES)機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。デジタル端子(オプチカルまたはコアキシャル)付きアンプをつないで、フロントスピーカーとリアスピーカーを2つずつとセンタースピーカー、およびサブウーファーをつないでいるときは、より制作者の意図に近い音場が再現できます。

PROGRAM プログラム(38ページ)

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。

SHUFFLE シャッフル(40ページ)

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム(無作為)に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。

REPEAT リピート(41ページ)

ディスク全体(全タイトル/全トラック)または1つのタイトル/チャプター/トラックだけを繰り返し再生できます。

A-B REPEAT A-Bリピート(42ページ)

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。

ADVANCED アドバンスド(DVDのみ)(43ページ)

ビットレートやビットレートヒストリー、再生中のディスクが読んでいる位置(レイヤー)についての情報を見ることができます。

再生するタイトル/チャプター/トラック/インデックス/シーンを選ぶ



DVD

VIDEO
CD

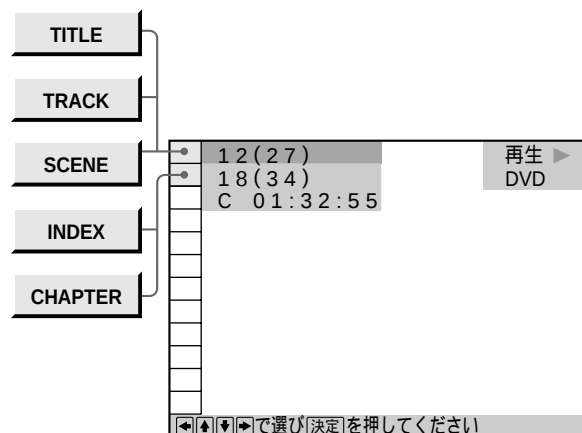
CD

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを
選んで映像や曲を探することができます。

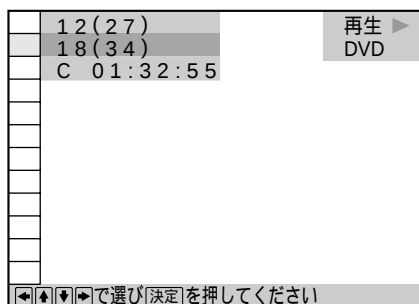
画面表示ボタンを押したあと、「TITLE」か「CHAPTER」、
「TRACK」、「INDEX」、「SCENE」を選びます。

DVDを再生しているときは、「TITLE」と「CHAPTER」が
表示されます。

ビデオCD/CDを再生しているときは、「TRACK」と
「INDEX」が表示されます。ビデオCDでPBC再生をしてい
るときは、「SCENE」が表示されます。



- 1 ↑/↓で「TITLE」または「CHAPTER」、「TRACK」、
「INDEX」、「SCENE」を選ぶ。
「**(**)」が選ばれます(**は任意の数字)。かっ
こ内の数字はタイトル、チャプター、トラック、イン
デックス、シーンの総数です。



- 2 →または決定ボタンを押す。

「**(**)」が「--(**)」に変わります。



- 3 数字ボタンでタイトル、チャプター、トラック、イン
デックス、シーンの数字を選んで、決定ボタンを押す。
選んだ場所を探し始めます。入力した数字を訂正する
ときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してくだ
さい。

選択を途中でやめるには

↩リターンボタンを押します。

ご注意

- 表示されるタイトル、チャプター、トラックの数字はディスクに記
録されているタイトル、チャプター、トラックの数字です。
- ビデオCDのPBC再生中はインデックスの数字は表示されません。

経過時間と残り時間を見る

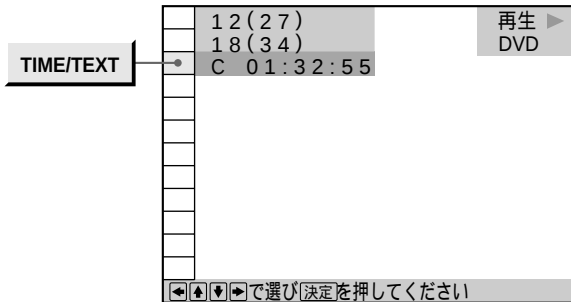


DVD

VIDEO
CD

CD

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。画面表示ボタンを押します。そのあと、リモコンの時間/テキストボタンを押して、時間表示を切り換えます。DVDテキストやCDテキストを見ることもできます。33ページをご覧ください。



DVDを再生中

■ TIME/TEXT

- C ** : ** : ** : 再生中のチャプターの経過時間
- C - ** : ** : ** : 再生中のチャプターの残り時間
- T ** : ** : ** : 再生中のタイトルの経過時間
- T - ** : ** : ** : 再生中のタイトルの残り時間

ビデオCDをPBC再生中

■ TIME/TEXT

- ** : ** : ** : 再生中のシーンの経過時間

ビデオCD (PBC再生中を除く) かCDを再生中

■ TIME/TEXT

- T ** : ** : ** : 再生中のトラックの経過時間
- T - ** : ** : ** : 再生中のトラックの残り時間
- D ** : ** : ** : 再生中のディスクの経過時間
- D - ** : ** : ** : 再生中のディスクの残り時間



「TIME/TEXT」の画面を直接表示できます

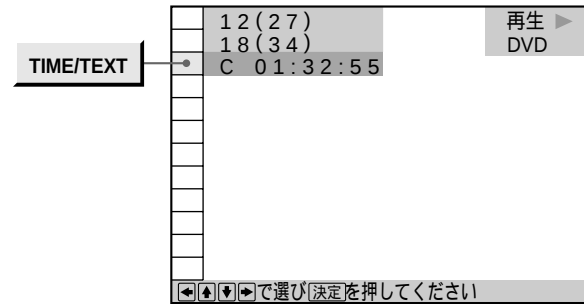
リモコンの時間/テキストボタンを押します。ボタンを押すたびに時間表示が変わります。

タイムコードを使って場面を探す

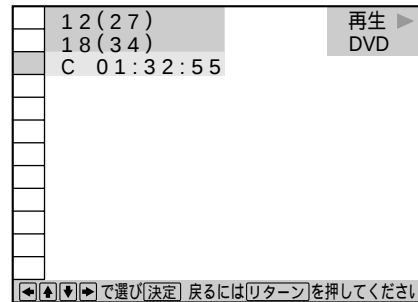


DVD

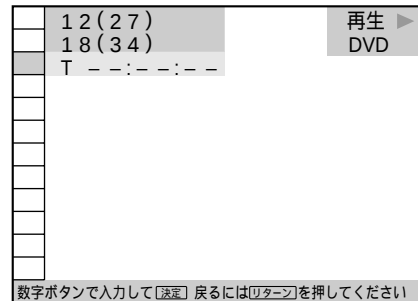
タイムコードを入力して場面を探すことができます。画面表示ボタンを押したあと、「TIME/TEXT」を選びます。タイムコードはおよそ実際の経過時間に対応しています。例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには2:10:20と入力します。



- 1 DVDを再生中に「C * * : * * : * *」(再生中のチャプターの経過時間)を選ぶ。



- 2 →または決定ボタンを押す。
タイムコードが「T - - : - - : - -」に変わる。



- 3 数字ボタンを使ってタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。
選んだ場所を探し始めます。入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

タイムコードの入力を途中でやめるには

⏮️ リターンボタンを押します。

ご注意

タイムコードを入力するときは、タイトルの経過時間を入力してください。

ディスクの情報を見る



DVD

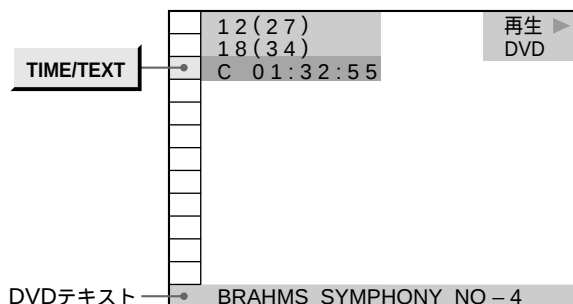
VIDEO
CD

CD

ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを表示窓やテレビ画面で見ることができます。

画面表示ボタンを押します。そのあと、DVDテキストかCDテキストが表示されるまでリモコンの時間/テキストボタンを押します。

情報はテレビ画面の一番下に表示されます。



DVDテキスト — BRAHMS SYMPHONY NO - 4
または、
CDテキスト

ご注意

英語のTEXT (テキスト) のみ表示できます。



「TIME/TEXT」の画面を直接表示できます

リモコンの時間/テキストボタンを押します。情報を表示するには、情報が表示されるまで時間/テキストボタンを押します。

音声を切り換える

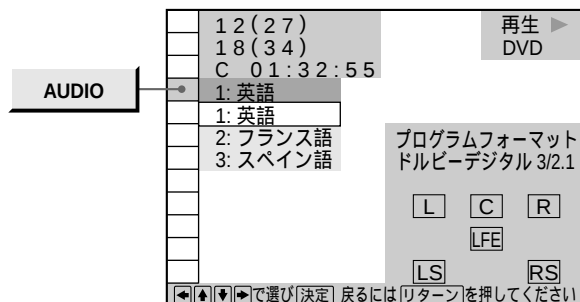


DVD

VIDEO
CD

CD

DVDの中には、複数の言語(マルチランゲージ)で音声記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。またカラオケのビデオCDなどでは、音声を切り換えてボーカルのトラックを消せるものもあります(このときの音声はモノラルです)。画面表示ボタンを押したあと、「AUDIO」を選びます。



AUDIO

DVDを再生中

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(63ページ)を参照して選んでください。

ビデオCDまたはCDを再生中

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- ・ステレオ：通常のステレオ再生
- ・1/L：左チャンネルの音
- ・2/R：右チャンネルの音

☞「AUDIO」画面を直接表示できます
リモコンの音声ボタンを押します。

ご注意

- ・DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- ・CD/ビデオCDのときは、電源を切ったり、ディスクを取り出すと通常のステレオ再生に戻ります。
- ・DVDでは、タイトルを変えたり、ディスクを取り出すと、音声が変わる場合があります。
- ・4桁の数字で言語が表示されるときは「言語コード一覧表」(63ページ)を参照して選んでください。

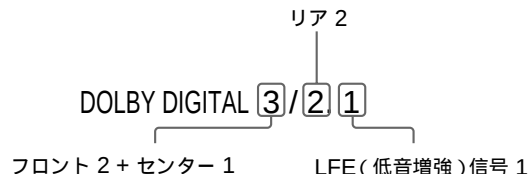
再生しているチャンネルを表示する DVD

「AUDIO」を選んだときに、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示します。ドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。



*「PCM」あるいは「DTS」、「ドルビーデジタル」と表示されます。「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが数字で表示されます。

ドルビーデジタル5.1chの場合：



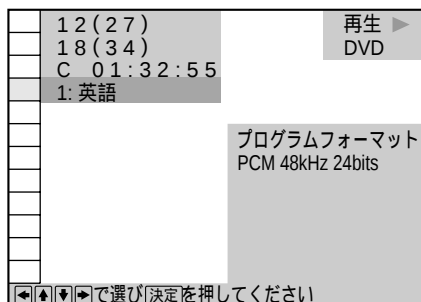
**チャンネル表示はスピーカーの有無にかかわらず、再生中のトラックに記録されている信号を表します。各記号は次のチャンネルを表しています。

- L： フロント(L)
- R： フロント(R)
- C： センター(モノラル)
- LS： リア(L)
- RS： リア(R)
- S： リア(モノラル)：ドルビーサラウンド処理された2ch信号または、ドルビーデジタル信号のリア成分です。
- LFE： LFE(低音増強)信号

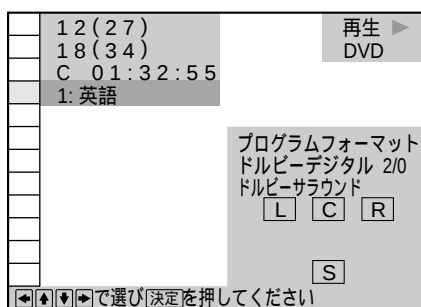
字幕を表示する DVD

画面表示の例

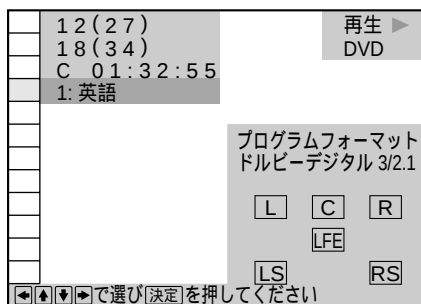
- PCM (ステレオ) のとき



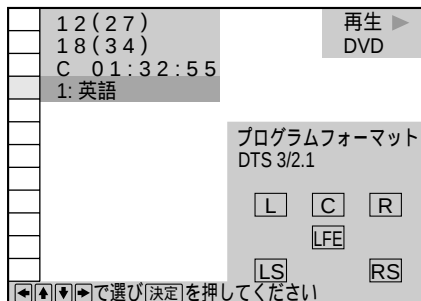
- ドルビーサラウンドのとき



- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき



- DTS のとき



 ドルビーデジタルサラウンド方式で記録されたソフトはパッケージを見ればわかります
 のロゴのついたディスクをご使用ください。このロゴが付いていないと、ドルビーデジタルを使って再生できません。

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は再生中であれば、好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。例えば、字幕を表示して、語学の学習に役立てたりすることができません。

画面表示ボタンを押したあと、「SUBTITLE」を選びます。



■ SUBTITLE

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(63ページ)を参照して選んでください。



「SUBTITLE」画面を直接表示できます

リモコンの字幕ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- 字幕が記録されていないディスクでは、字幕を表示させることはできません。
- DVDによっては字幕が記録されていても、字幕表示を禁止しているものがあります。
- DVDによっては、字幕を消すことを禁止している場合があります。
- 4桁の数字で言語が表示されるときは「言語コード一覧表」(63ページ)を参照して選んでください。
- 記録されている字幕の言語の種類や数はDVDによって異なります。
- DVDによっては複数の字幕が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- タイトルを変えたり、ディスクを取り出したりすると、字幕が切り換わる場合があります。

######

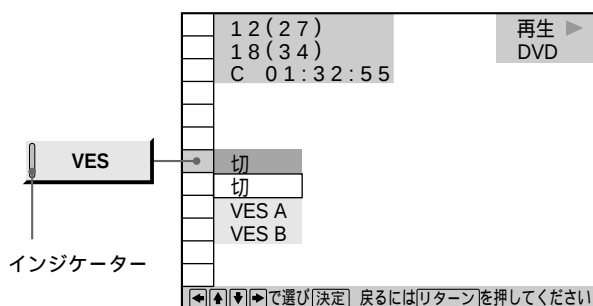
デジタルシネマサウンドの設定をする



ドルビーデジタルサラウンドなどのマルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。

フロントスピーカーしかつないでいないときでも、バーチャルエンハンスサラウンド(VES)の機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。

デジタル端子(オプティカルまたはコアキシャル)付きアンプをつないで、フロントスピーカーとリアスピーカーを2つずつとセンタースピーカー、およびサブウーファーをつないでいるときは、より制作者の意図に近い音場が再現できます。画面表示ボタンを押したあと、「VES」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは「VES」のアイコンのインジケーターが緑に点灯します。



■ VES

希望の項目を選びます。それぞれの項目について詳しくは、「各項目について」をご覧ください。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- 切
- VES A
- VES B

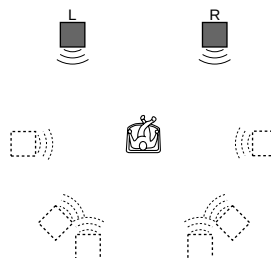
各項目について

切

CDに記録されている2チャンネルのステレオの信号をフロントスピーカーから出力します。DVDに記録されている5チャンネルのドルビーデジタル音声は、2チャンネルに変換されて出力されます。

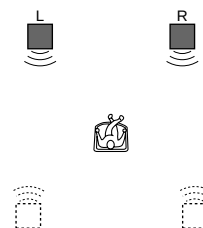
バーチャル エンハンス サラウンド
VES (Virtual Enhanced Surround) A

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカーの音で、3組の仮想スピーカーを再現します。仮想スピーカーは下図のように再生されます。



バーチャル エンハンス サラウンド
VES (Virtual Enhanced Surround) B

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカーの音で、1組の仮想スピーカーを再現します。仮想スピーカーは下図のように再生されます。



ご注意

- 「オーディオ設定」で「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定しているときは、「VES」は選べません。
- ディスクによってはリア音声記録されていないものもあります。この場合、3Dサラウンドの効果は得られません。
- 項目を選んだときは一瞬音が途切れます。
- 「VES A」と「VES B」では再生する信号にサラウンド成分が含まれていない場合、効果がわかりにくかったり、音がひずむことがあります。
- 両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていないときは、「VES A」または「VES B」を選んでも効果がわかりにくいことがあります。
- サブウーファーをつないでいるときは、サブウーファーからも音が出ます。
- 「VES A」または「VES B」を選んでいないときは、つないでいる機器(アンプなど)のサラウンドの設定は「切」にしてください。

好きな順に再生する(プログラム再生)

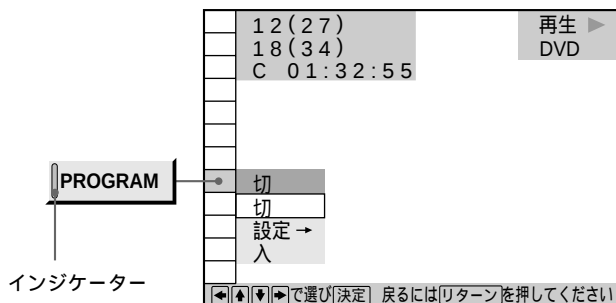


DVD

VIDEO
CD

CD

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。最大99まで、再生したい順にプログラムできます。画面表示ボタンを押したあと、「PROGRAM」を選びます。「入」を選んでいるときは「PROGRAM」のアイコンのインジケーターが緑に点灯します。



■ PROGRAM

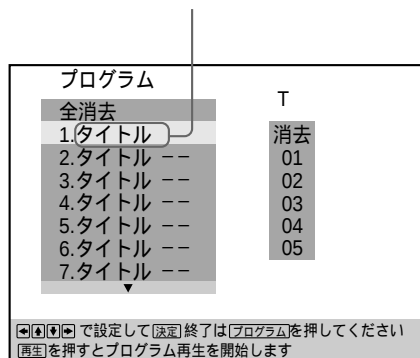
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- ・ 切：普通の再生
- ・ 設定→：プログラムを設定する
- ・ 入：プログラム再生

プログラムを設定する

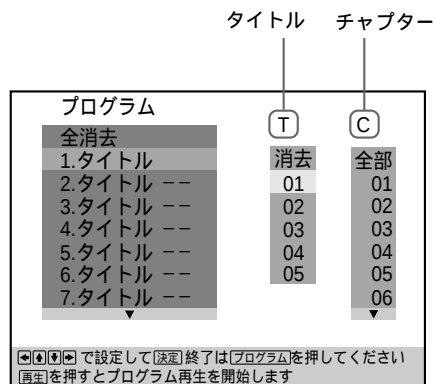
- 1 「PROGRAM」の「設定→」を選ぶ。
プログラム設定画面が表示されます。

CD/ビデオCDではトラックと表示されます



- 2 →を押す。

プログラム1が選ばれます。プログラムの最初のタイトルまたはトラックを設定します。

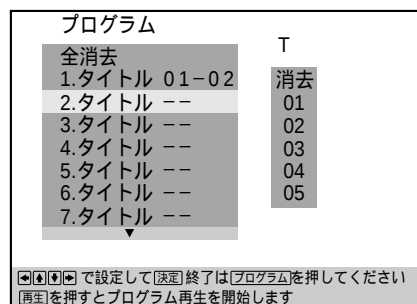
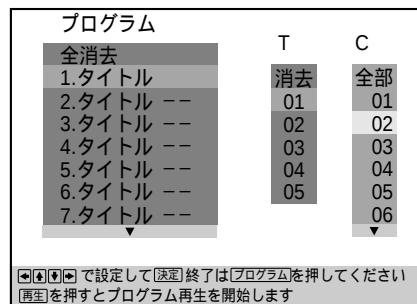


- 3 ↑/↓で再生したいタイトル/チャプター/トラックを選んで、決定ボタンを押す。

たとえばタイトルまたはトラック2を選びます。(数字ボタンで選んで、決定ボタンを押して選択することもできます。このとき選択した番号が画面に表示されます。)

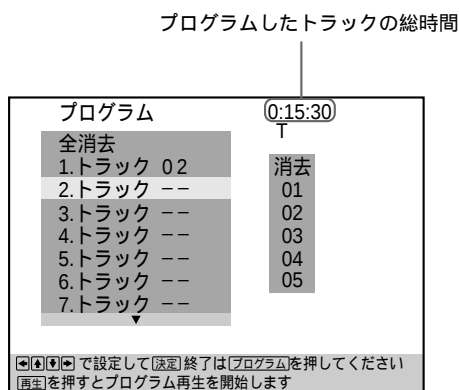
■ DVDのとき

タイトルとチャプターの両方が記録されている場合は、タイトルを選んでから、チャプターを選択する。



■ CD/ビデオCDのとき

ディスクに記録されているトラックの中から再生するトラックを選ぶ。



4 他に再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順3を繰り返す。

選択したタイトル/チャプター/トラックがプログラム設定画面の 2、3、... に順に表示されます。

5 ▷を押す。

設定した順に再生が始まります。

プログラム再生からふつうの再生に戻るときは

「PROGRAM」で「切」を選ぶか、リモコンのクリアボタンを押します。

プログラムの設定をやめるときは

リモコンのプログラムボタンを押します。

プログラムの設定を変更するときは

手順2で、↑/↓を使って変更したいプログラム番号を選びます。そのあと手順3の操作で新しい設定を入力します。

設定したプログラムを消すには

すべて消すときは、手順2で「全消去」を選びます。ひとつだけ消すときは、手順2で↑/↓を使って消したいプログラムを選んでクリアボタンを押すか、手順3で「消去」を選びます。

💡 プログラムすべての再生が終わっても、作ったプログラムは残っています

▷を押すと、同じプログラムをもう1度再生します。

💡 設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます

プログラムを再生中に、くり返しボタンやシャッフルボタンを押してください。またはコントロールメニュー画面の「REPEAT」または「SHUFFLE」を「入」にしてください。

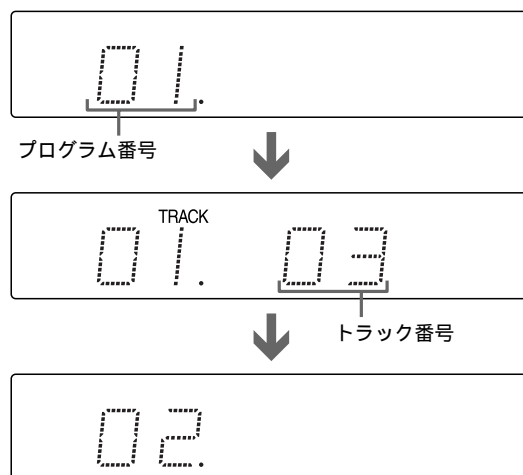
💡 「PROGRAM」画面を直接表示できます

リモコンのプログラムボタンを押します。

💡 前面の表示窓を見ながら、タイトルやトラック、チャプターを選びます

テレビにプログラム設定画面を出さなくても、前面の表示窓を見てプログラムを設定できます。

例として、プログラム1にビデオCDのトラック3を入れた場合は、下のように表示されます。



ご注意

- 次のときには設定したプログラムは消えます。
 - ディスクを取り出したとき
 - 電源を切ったとき
- DVDによってはプログラム再生ができない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからプログラムを設定してください。

順不同に再生する(シャッフル再生)



DVD

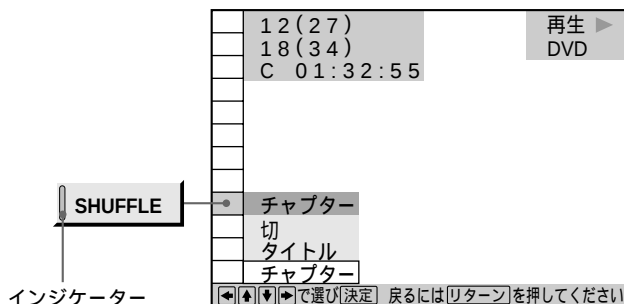
VIDEO
CD

CD

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム(無作為)に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。
画面表示ボタンを押したあと、「SHUFFLE」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは「SHUFFLE」のアイコンのインジケーターが緑に点灯します。

ご注意

- 以下の場合は、次に再生するときふつうの再生に戻ります。
 - － ディスクを取り出したとき
 - － 電源を切ったとき
- DVDによってはシャッフル再生ができない場合があります。
- 「チャプター」を選んだとき、ディスク中の200のチャプターまでシャッフル再生できます。



■ SHUFFLE

シャッフル再生の設定を選びます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

DVDを再生するときで「PROGRAM」を「切」にしているとき

- 切：シャッフル再生しません
- タイトル：タイトルを順不同にして再生します
- チャプター：チャプターを順不同にして再生します

ビデオCD、CD、DVDを再生するときで「PROGRAM」を「入」にしているとき

- 切：シャッフル再生しません
- 入：タイトルまたはトラックを順不同にして再生します

ビデオCD、CDを再生するときで「PROGRAM」を「切」にしているとき

- 切：シャッフル再生しません
- トラック：トラックを順不同にして再生します

シャッフル再生からふつうの再生に戻すときは

「SHUFFLE」で「切」を選ぶか、リモコンのクリアボタンを押します。

停止中でもシャッフル再生の設定ができます

「SHUFFLE」で項目を選んで▶ボタンを押します。シャッフル再生が始まります。

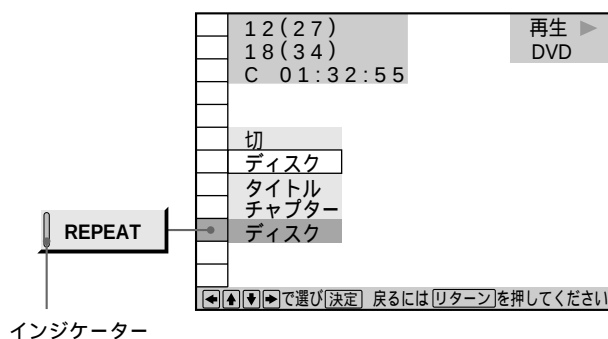
「SHUFFLE」画面を直接表示できます
リモコンのシャッフルボタンを押します。

繰り返し再生する(リピート再生)



ディスク全体(全タイトル/全トラック)または1つのタイトル/チャプター/トラックだけを繰り返し再生できます。シャッフル再生やプログラム再生しているときは、シャッフル再生やプログラム再生での順序で繰り返し再生します。ビデオCDのPBC再生(25ページ)では、リピート再生できません。

DVDによってはリピート再生ができない場合があります。画面表示ボタンを押したあと、「REPEAT」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは「REPEAT」のアイコンのインジケーターが緑に点灯します。



■ REPEAT

リピート再生の設定を選びます。

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

DVDを再生するときで「PROGRAM」と「SHUFFLE」を「切」にしているとき

- ・ 切：リピート再生しません
- ・ ディスク：すべてのタイトルを繰り返して再生します
- ・ タイトル：再生中のタイトルを繰り返して再生します
- ・ チャプター：再生中のチャプターを繰り返して再生します

ビデオCD、CDを再生するときで「PROGRAM」と「SHUFFLE」を「切」にしているとき

- ・ 切：リピート再生しません
- ・ ディスク：すべてのトラックを繰り返して再生します
- ・ トラック：再生中のトラックを繰り返して再生します

ビデオCD、CD、DVDを再生するときで「PROGRAM」と「SHUFFLE」を「入」にしているとき

- ・ 切：リピート再生しません
- ・ 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返して再生します

リピート再生をやめるときは

「REPEAT」で「切」を選ぶか、リモコンのクリアボタンを押します。

💡 停止中でもリピート再生の設定ができます

「REPEAT」で項目を選んで▷ボタンを押します。リピート再生が始まります。

💡 「REPEAT」画面を直接表示できます

リモコンのくり返しボタンを押します。

ご注意

電源を切ると、リピート再生は解除されます。

再生したい部分だけを繰り返す(A↔Bリピート)



DVD

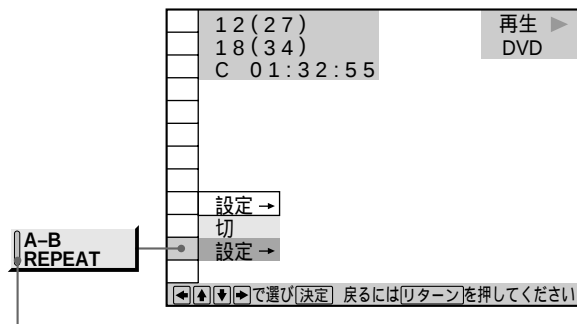
VIDEO
CD

CD

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。

ビデオCDのPBC再生(25ページ)では、動画の再生中にだけできる操作です(動画の部分だけで繰り返す部分を指定できます)。

DVDによっては繰り返し再生ができない場合があります。画面表示ボタンを押したあと、「A-B REPEAT」を選びます。A↔Bリピート中は「A-B REPEAT」のアイコンのインジケーターが緑に点灯します。



インジケーター

■ A-B REPEAT

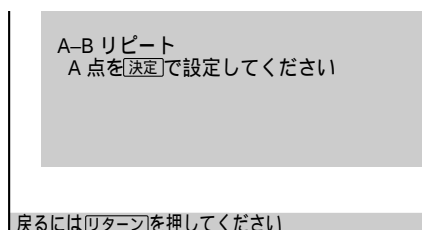
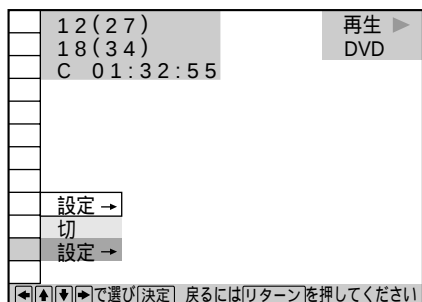
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- 設定→: 繰り返す部分の始点(A点)と終点(B点)を設定します
- 切: A↔Bリピート再生しません

繰り返す部分を設定する

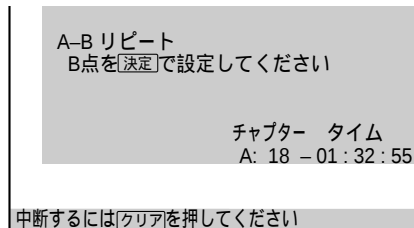
1 「A-B REPEAT」の「設定→」を選ぶ。

A↔Bリピート設定画面が表示されます。



2 再生中に繰り返す部分の始点(A点)で決定ボタンまたはA↔Bボタンを押す。

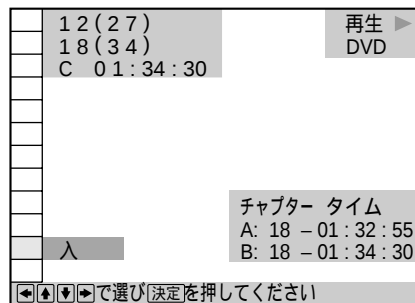
A点が設定されます。



3 繰り返す部分の終点(B点)でもう一度決定ボタンまたはA↔Bボタンを押す。

指定した部分が表示され、指定した部分をくり返し始めます。

A↔Bリピート中は表示窓の「A-B」が点灯します。



A↔Bリピートをやめるときは

「A-B REPEAT」で「切」を選ぶか、リモコンのクリアボタンを押します。



「A-B REPEAT」画面を直接表示できます
リモコンのA↔Bボタンを押します。

ご注意

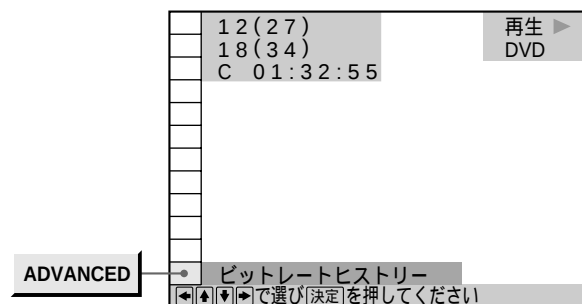
- A↔Bリピートが設定できるのは1か所のみです。
- 次のときには、設定したA↔Bリピートは消えます。
 - ディスクを取り出したとき
 - 電源を切ったとき
- A↔Bリピートを設定すると、シャッフル再生やプログラム再生は解除されます。
- DVD、ビデオCDの場面によっては、A↔Bリピートの設定ができない場合があります。

再生の情報を見る DVD

ビットレートやビットレートヒストリー、再生中のディスクが読んでいる位置(レイヤー)についての情報を見ることができます。

再生中、およその映像のビットレートがMbps (Mega bit per second) で、音声のビットレートがkbps (kilo bit per second) で表示されます。

画面表示ボタンを押したあと、「ADVANCED」を選びます。



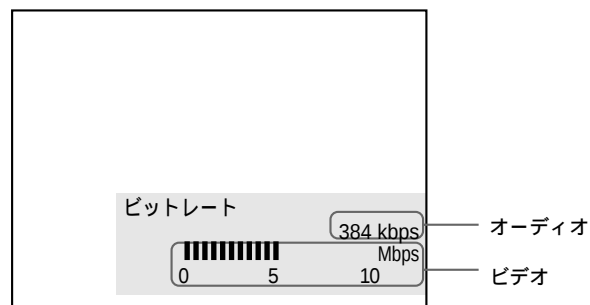
■ ADVANCED

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- ビットレート：ビットレートを表示する
- ビットレートヒストリー：ビットレートとビットレートヒストリーを表示する
- レイヤー：レイヤーを表示する
- 消：ADVANCED画面を消す

各項目の表示

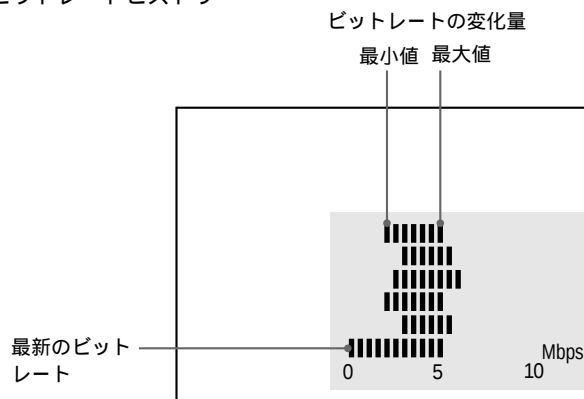
ビットレート



ビットレートはDVDに圧縮して記録されている画像や音声の、1秒あたりの情報量を示す値です。画像の場合、単位はMbps (Mega bit per second) で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。音声の場合、単位はkbps (kilo bit per second) です。

この値が大きいくほど画像や音声の情報量は多くなりますが、必ずしも画質や音質とは直接関係しません。

ビットレートヒストリー



再生している映像の現在までのある期間のビットレートの推移を示します。

レイヤー



再生中のディスクが読んでいるおよその位置を示します。2層のDVDではどちらのレイヤーが読まれているかも示します。レイヤーについて詳しくは62ページのDVDの項目をご覧ください。

設定と調整

ここでは、設定画面を使った設定と調整について説明します。

本機を初めてお使いになるときに必要な設定もあります。

付属のリモコンを使ったテレビやアンプの操作についてもここで説明しています。

設定画面での設定/調整のしかた



DVD

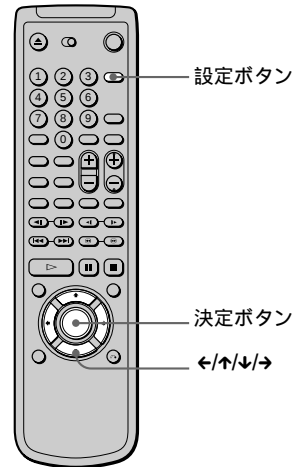
VIDEO
CD

CD

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また DVD を再生するときの、字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目の詳しい内容は47～54ページをご覧ください。

ご注意

設定画面は本機が停止しているときのみ表示できます。

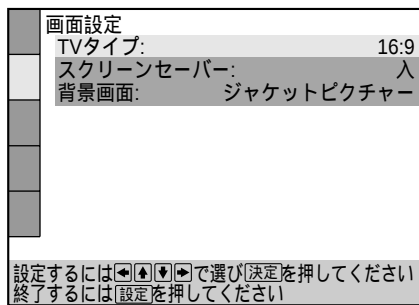
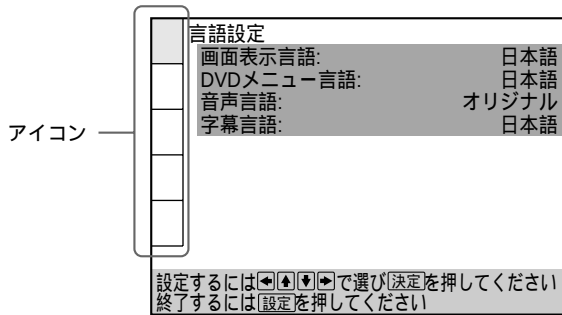


1 設定ボタンを押す。

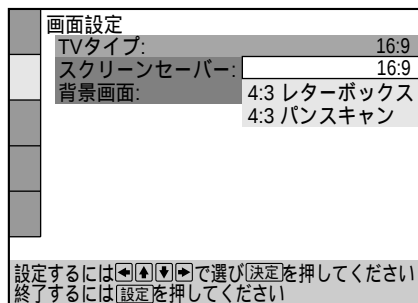
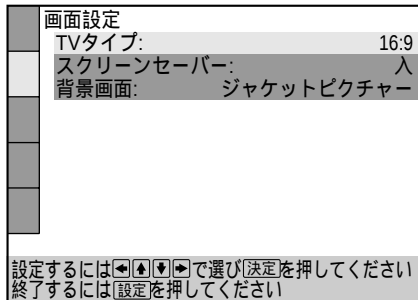
設定画面が表示されます。

言語設定	
画面表示言語:	日本語
DVDメニュー言語:	日本語
音声言語:	オリジナル
字幕言語:	日本語
設定するには[←][→][↑][↓]で選び[決定]を押してください 終了するには[設定]を押してください	

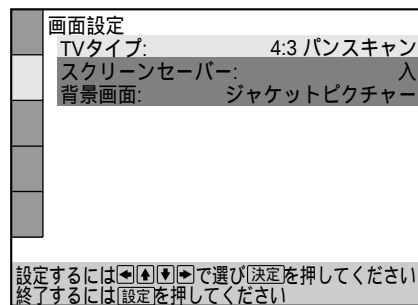
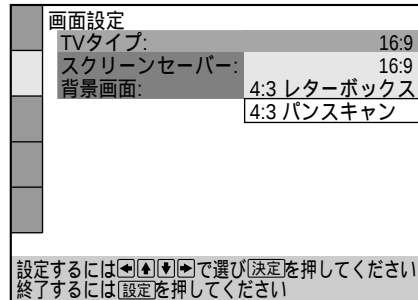
- 2 ↑/↓でアイコンを選んで、決定ボタンを押す。
アイコンが選ばれます。



- 3 ↑/↓で項目を選んで、→または決定ボタンを押す。



- 4 ←/↑/↓/→で項目を選んで、決定ボタンを押す。



設定画面の設定を途中でやめるには

リモコンの設定ボタンを押します。

ご注意

設定画面の項目には、その中で項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページの各項目に記されている参照ページをご覧ください。

設定画面項目一覧表

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

言語設定 (47ページ)

- 画面表示言語
 - 日本語
 - ENGLISH
- DVDメニュー言語
 - 日本語
 - 英語
 - 中国語
 - ドイツ語
 - フランス語
 - イタリア語
 - スペイン語
 - ポルトガル語
 - オランダ語
 - デンマーク語
 - スウェーデン語
 - フィンランド語
 - ノルウェー語
 - ロシア語
 - その他 →
- 音声言語
 - オリジナル
 - (DVDメニュー言語と同じ)
- 字幕言語
 - 日本語
 - 音声連動
 - (DVDメニュー言語と同じ)

画面設定 (48ページ)

- TV タイプ
 - 16:9
 - 4:3 レターボックス
 - 4:3 パンスキャン
- スクリーンセーバー
 - 入
 - 切
- 背景画面
 - ジャケットピクチャー
 - グラフィックス
 - 青
 - 黒

視聴設定 (49ページ)

- 自動再生
 - 切
 - タイマー
 - デモ 1
 - デモ 2
- 表示窓の明るさ
 - 明
 - 暗
 - 消
 - 自動
- 一時停止モード
 - 自動
 - フレーム
- 視聴年齢制限 →

オーディオ設定 (51ページ)

- オーディオ ATT
 - 切
 - 入
- オーディオ DRC
 - スタンダード
 - テレビ
 - ワイドレンジ
- 音声トラック自動選定モード
 - 切
 - 入
- ダウンミックス
 - ドルビーサラウンド
 - ノーマル
- 音声デジタル出力
 - 入
 - 切
 - ドルビーデジタル
 - DTS

スピーカー設定 (53ページ)

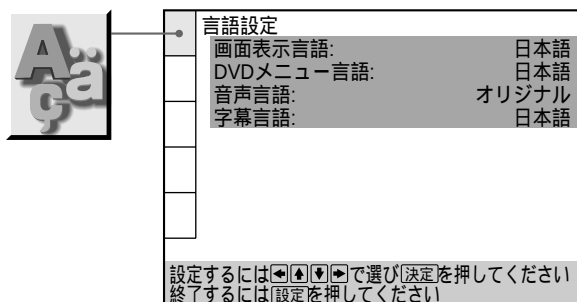
- サブウーファー
 - なし
 - あり
 - フロントスピーカーサイズ
 - 大
 - 中
 - 小
 - テレビ



設定ボタンを押したあと、「言語設定」を選びます。
再生するときの表示や音声の言語を設定します。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

ご注意

DVDに記録されていない言語を選んだときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます(「画面表示言語」を除く)。



■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

- 日本語
- ENGLISH

■ DVDメニュー言語

DVDに記録されているDVDメニューの言語を切り換えます。

- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他→

「その他→」を選んだときは、63ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを一旦選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 音声言語

DVDに記録されている音声の言語を切り換えます。

- オリジナル：ディスク内で優先されている言語
- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他→

「その他→」を選んだときは、63ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを一旦選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■ 字幕言語

DVDに記録されている字幕の言語を切り換えます。

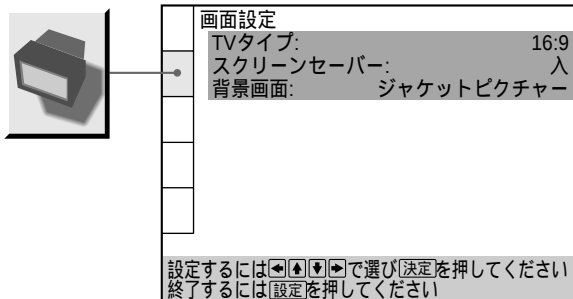
- 日本語
- 音声連動*
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他→

「その他→」を選んだときは、63ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを一旦選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

* 「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。



設定ボタンを押したあと、「画面設定」を選びます。
接続するテレビの形状などを設定します。お買い上げ時は下
線の付いている項目に設定されています。

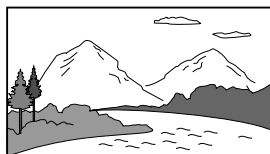


■ TVタイプ

接続するテレビのアスペクト比および通常のテレビでDVD
のワイド画像を再生するときに出力する画面の形を設定しま
す。

- **16:9**：ワイドテレビまたは、ワイドモードのある通常のテ
レビで見るとき。
- **4:3 レターボックス**：通常のテレビで、ワイド画像を横長
に表示して画面の上下には帯を入れるとき。
- **4:3 パンスキャン**：通常のテレビに、ワイド画像の一部を
自動的にカットして画面全体に表示するとき。

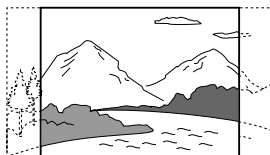
16:9



4:3 レターボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」
にしても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

一時停止か停止したままで15分たつかCDを15分以上再生す
ると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定しま
す。これは画像の焼き付き(残像現象)を防ぐのに役立ちま
す。

- **入**：スクリーンセーバーを使う。
- **切**：スクリーンセーバーを使わない。

■ 背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定
します。

- **ジャケットピクチャー**：ディスク(CD-EXTRAなど)にあ
らかじめ記録されているジャケットピクチャー(静止画像)
を背景画面にする。
- **グラフィックス**：あらかじめ本機に記憶されているグラ
フィックピクチャーを背景画面にする。
- **青**：画面の背景色を「青」にする。
- **黒**：画面の背景色を「黒」にする。

ご注意

「ジャケットピクチャー」を選んでいるときに、ジャケットピク
チャーが記録されていないディスクを再生すると、「グラフィッ
クス」の画像が自動的に表示されます。

視聴に関する設定(視聴設定)



DVD

VIDEO
CD

CD

設定ボタンを押したあと、「視聴設定」を選びます。
視聴年齢制限などを設定します。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



■ 自動再生

コンセントを入れたときの動作を設定します。

- **切**：「タイマー」、「デモ1」、「デモ2」を使わないで起動する。
- **タイマー**：電源が入ったとき、自動で再生を始める。別売りのタイマーを使って希望の時刻に再生を始めることができます。
- **デモ1**：デモンストレーション1を再生する。
- **デモ2**：デモンストレーション2を再生する。

■ 表示窓の明るさ

本体前面の表示窓の明るさを調整します。

- **明**：明るくする。
- **暗**：暗くする。
- **消**：表示を消す。
- **自動**：本体やリモコンを操作すると、数秒間点灯する。

■ 一時停止モード(DVDのみ)

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

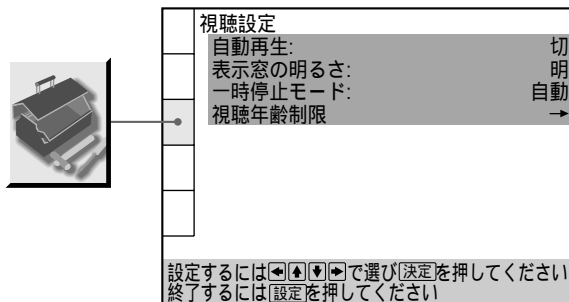
- **自動**：大きく動きのある被写体の画像がぶれずに見られる。通常は「自動」にしておきます。
- **フレーム**：動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる。

■ 視聴年齢制限 →

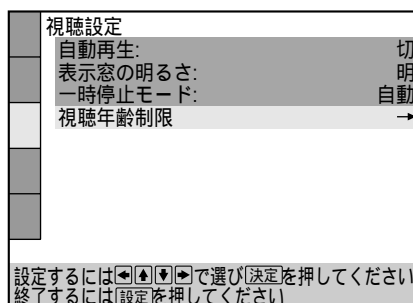
視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。
詳しくは「年齢による視聴制限をする」をご覧ください。

年齢による視聴制限をする DVD

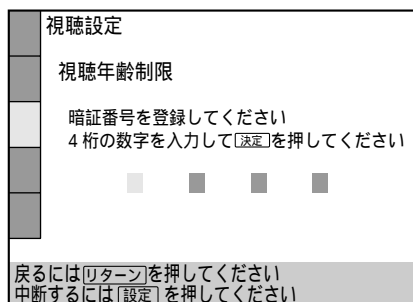
設定ボタンを押したあと、「視聴設定」を選びます。
DVDの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。本機には、この視聴制限レベルを設定しておく機能があります。



1 ↑/↓で「視聴年齢制限」を選んで、決定ボタンを押す。



- 暗証番号がまだ登録されていないとき
「視聴年齢制限」の暗証番号入力画面が表示されます。



視聴に関する設定(視聴設定)

- 暗証番号がすでに登録されているとき
「視聴年齢制限」の暗証番号確認の画面が出るので、
手順2をとばして手順3に進みます。

- 2 設定したい4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
決定ボタンを押すと数字は「*」に変わり、暗証番号確認の画面になります。

- 3 確認のため、設定した暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
視聴制限のレベル設定と暗証番号の変更の画面が表示されます。

- 4 ↑/↓ で「使用する地域」を選んで、→を押す。

- 5 ↑/↓ で視聴制限レベルの基準にする地域を選んで、→を押す。
「その他→」を選んだときは、次ページの表を見て地域コードを数字ボタンで入力します。

- 6 ↑/↓ で「レベル」を選んで→を押す。

- 7 ↑/↓ で設定するレベルを選んで、決定ボタンを押す。

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

通常の画面に戻すときは

設定ボタンを押します。

暗証番号を設定したあとで、視聴年齢制限を解除してDVDを再生するときは

手順7で「切」を選んで再生します。

暗証番号を変更したいときは

手順3で $\uparrow/\downarrow$ を使って「暗証番号変更」を選択して、 $\rightarrow$ または決定ボタンを押すと、暗証番号変更の画面が出ます。このあともう一度手順2から手順3の操作をすれば、新しい暗証番号が登録されます。

 DVDを入れた直後に視聴年齢制限を解除できます（視聴年齢制限一時解除）

視聴制限レベルを設定してDVDを入れると、視聴年齢制限の暗証番号入力画面が出ます。暗証番号を入力すると、視聴年齢制限が一時解除されます。DVDの再生をやめると、視聴制限レベルはもとに戻ります。

 設定した暗証番号を忘れてしまったときは

手順2で暗証番号の代わりに数字「199703」を入力します。これにより以前の暗証番号が消えます。暗証番号を再度設定するときは、もう一度手順2からやり直してください。

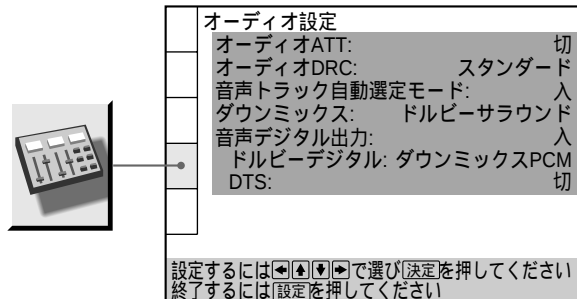
ご注意

- ・視聴年齢制限がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- ・暗証番号の設定をしないと、設定値の変更ができません。
- ・DVDによっては、再生中に視聴制限レベルの変更を要求されることがあります。このときは暗証番号を入力してレベルを変更してください。なお、停止すると元のレベルに戻ります。

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
イギリス	2184	中国	2092
イタリア	2254	デンマーク	2115
インドネシア	2238	ドイツ	2109
オーストリア	2046	日本	2276
オランダ	2376	ノルウェー	2379
カナダ	2079	フィリピン	2424
シンガポール	2501	フィンランド	2165
スイス	2086	フランス	2174
スウェーデン	2499	ベルギー	2057
スペイン	2149	香港	2219
タイ	2528	マレーシア	2363
台湾	2543	ロシア	2489

音声に関する設定(オーディオ設定)

設定ボタンを押したあと、「オーディオ設定」を選びます。再生するときの音の設定を、まわりの条件に合わせて設定します。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



■ オーディオATT

接続する機器に合わせてLINE OUT (AUDIO 1、2) 端子からの出力を調整します。

- ・切：「オーディオATT」を働かせない。
- ・入：音が歪まないように出力レベルを低くする。

ご注意

OPTICAL/COAXIAL端子からの出力には影響しません。

■ オーディオDRC (Dynamic Range Control)

DVDを夜間など音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。この機能は、LINE OUT (AUDIO 1、2) 端子からの出力、「音声デジタル出力」を「入」に設定し、「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したときのOPTICAL/COAXIAL端子の出力に働きます。

- ・スタンダード：通常は「スタンダード」にしておく。
- ・テレビ：小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときにおすすめします。
- ・ワイドレンジ：臨場感のある音になる。高品質のスピーカーを使っているときは特に効果的です。

ご注意

- ・オーディオDRC機能のないDVDを再生しているときは、効果がありません。
- ・オーディオDRCを「ワイドレンジ」に設定しているときは、音量は通常より小さくなります。

■ 音声トラック自動選定モード

複数の音声方式が記録されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）の音声を優先して再生するかどうかを設定します。

- ・切：優先しない。
- ・入：優先する。

音声に関する設定(オーディオ設定)

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」(47ページ)より優先されるためです。
- 「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」で「入」を選んで、「DTS」を「切」に設定していると、「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んで、DTS音声チャンネル数が最も多くても、DTS音声は再生されません。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じだった場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていて、「入」に設定しても優先されないことがあります。

■ ダウンミックス*

ドルビーデジタル方式で記録されているDVDを再生するときの、ダウンミックスの方式を切り換えます。

- ドルビーサラウンド**：ドルビーサラウンド、ドルビープロロジックサラウンドなどに対応しているオーディオ機器に接続して音を出すときに選ぶ。
- ノーマル**：通常のオーディオ機器に接続して音を出すときに選ぶ。

*「ダウンミックス」の設定はLINE OUT(AUDIO 1、2)端子とOPTICAL/COAXIAL端子の出力に影響します。

■ 音声デジタル出力

本体後面のOPTICAL/COAXIAL端子から出力する音声信号の方式を切り換えます。

- 入**：通常は「入」にしておく。「入」を選んだら、「ドルビーデジタル」、「DTS」を設定してください。「ドルビーデジタル」と「DTS」の設定について詳しくは、「音声デジタル出力の信号を設定する」をご覧ください。
- 切**：本体後面のOPTICAL/COAXIAL端子から出力しない。「切」を選ぶとデジタル回路がアナログ回路に与える影響を最小限に抑えられます。

ご注意

- サンプリング周波数96kHzのサウンドトラックを再生しているとき、OPTICAL/COAXIAL端子から出力する信号は48kHzに変換されて出力されます。LINE OUT(AUDIO 1、2)端子から出力する信号は96kHzのままアナログ信号に変換されて出力されます。
- 「切」を選んでいるときは、「ドルビーデジタル」、「DTS」を設定できません。

音声デジタル出力の信号を設定する

「音声デジタル出力」で「入」を選んだら、「ドルビーデジタル」、「DTS」を設定してください。光デジタル接続コードや同軸デジタル接続コードを使ってOPTICAL/COAXIAL端子に、デジタル端子付きのアンプやDTSデコーダー内蔵のオーディオ機器、MDデッキ、DATデッキをつなぐときの音声デジタル出力を設定します。

接続について詳しくは、16ページをご覧ください。

オーディオ設定	
オーディオATT:	切
オーディオDRC:	標準モード
音声トラック自動選定モード:	入
ダウンミックス:	ドルビーサラウンド
音声デジタル出力:	入
ドルビーデジタル:	ダウンミックスPCM
DTS:	切

設定するには[←][→][↑][↓]で選び[決定]を押してください
終了するには[設定]を押してください

■ ドルビーデジタル

OPTICAL/COAXIAL端子から出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。「デジタル音声出力」で「切」を選んでいるときは設定できません。

- ダウンミックスPCM**：ドルビーデジタルの音声を再生すると2chにダウンミックスされます。出力される信号のサラウンド成分の有無は「ダウンミックス」の設定によって決まります。
- ドルビーデジタル**：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵したオーディオ機器につないで音を出すときに選ぶ。

ご注意

ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだら、「オーディオ設定」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定しないでください。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがあります。

ご注意

「ドルビーデジタル」に設定すると、コントロールメニューの「VES」は選べません。

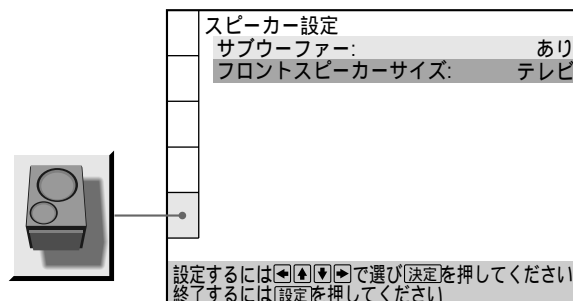
スピーカーの設定をする (スピーカー設定)

設定ボタンを押したあと、「スピーカー設定」を選びます。

サブウーファーを接続した場合、フロントスピーカーの大きさによってサブウーファーから出力する周波数帯域を変えることで、サラウンドをより楽しむことができます。

なお、「サブウーファー」や「フロントスピーカーサイズ」の設定を変えても、フロントスピーカーから出力する音声は変わりません。

スピーカーの接続については、15～17ページをご覧ください。



■ DTS

OPTICAL/COAXIAL端子から出力するDTS信号の方式を選びます。「デジタル音声出力」で「切」を選んでいるときは設定できません。

- ・切：DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
- ・入：DTSデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。

ご注意

誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがあります。

- ・DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときはDTS音声を再生しないでください。DTS内蔵のオーディオ機器につながないと、DTS音声を聞くことはできません。
- ・CDのDTS音声を再生するときに、LINE OUT(AUDIO 1、2)端子やPHONES端子から異音が出ることがあります。耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがないようにご注意ください。
- ・DVDのDTS音声を再生するときは、LINE OUT(AUDIO 1、2)端子やPHONES端子から音が出ません。

CDのDTS音声を再生するときのご注意

- ・DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときはDTS音声を再生しないでください。「DTS」を「切」に設定していても、DTS音声が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- ・デジタル端子からDTS音声を出力していても表示窓に「DTS」の表示は出ません。
- ・CDのDTS音声を再生するときは、コントロールメニュー画面の「AUDIO」は「ステレオ」に設定してください(34ページ)。「1/L」または「2/R」に設定していると、デジタル端子から音が出ません。

DVDのDTS音声を再生するときのご注意

- ・LINE OUT(AUDIO 1、2)端子、PHONES端子からは音が出ません。
- ・DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときは、「DTS」を「入」に設定しないでください。「DTS」を「入」に設定すると、異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- ・「DTS」を「切」に設定していると、DVDのDTS音声を再生してもデジタル端子から音が出ません。

■ サブウーファー

本機にサブウーファーをつないでいるか、いないか選びます。

- ・なし：サブウーファーをつないでいない。
- ・あり：サブウーファーをつないでいる場合は、「フロントスピーカーサイズ」でサブウーファーからの出力レベルを選べます。

■ フロントスピーカーサイズ

つないだフロントスピーカーの大きさを選びます。サブウーファーから出力される周波数帯域は、フロントスピーカーの大きさにより変わります。

「サブウーファー」が「なし」になっていると、この項目は選べません。

- ・大：低域を十分に再生できる大きなスピーカーを接続していて、LFE信号が入っているディスク(5.1チャンネルで記録されたDVDなど)を再生するときは、「大」にします。
- ・「大」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「中」を選んでください。

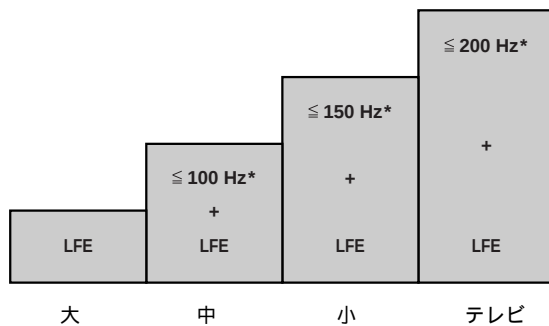
LFE信号の録音されていないディスクでは、「大」を選んでもサブウーファーから音は出ません。

- ・中：低域を十分に再生できる大きなスピーカーを接続していて、LFE信号が入っていないディスク(CDまたは2チャンネルで記録されたDVDなど)を再生するときは、「中」にします。フロントスピーカーの低域部分もサブウーファーから出力されます。
- ・「中」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「小」を選んでください。

スピーカーの設定をする(スピーカー設定)

- 小：音が歪んだり、サラウンド効果が不十分な場合は、「小」にします。フロントスピーカーで出力できない低域をサブウーファーから出力します。
「小」に設定してフロントスピーカーからの低音が足りないと感じたときは、「テレビ」を選んでください。
- テレビ：テレビのスピーカーで音を聞く場合は、「テレビ」にします。低域はサブウーファーから出力されます。小型スピーカーをつないだときも、「テレビ」にします。

💡 「フロントスピーカーサイズ」の設定により、サブウーファーからは次のようにLFE信号と周波数帯域が出力されます
LFE信号は、ディスクに録音されている場合のみ出力されます。

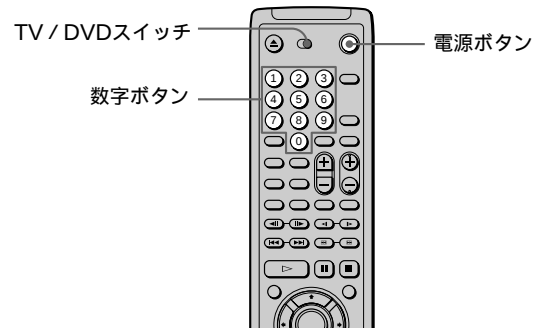


* LFE信号以外の音声信号

付属のリモコンでテレビやアンプを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。お買い上げ時はソニー製の国マーク付きテレビを操作できるように設定されています。

またAVアンプに本機をつないでいるときは、本機のリモコンでアンプの入力を本機に設定することもできます。



リモコンで各社のテレビを操作する

- 1 TV/DVDスイッチを「TV」側にする。
- 2 リモコンの電源ボタンを押したまま、テレビのメーカー番号(2桁)を数字ボタンで入力する。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	01 (お買い上げ時の設定) 、 12
松下電器	02、13
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機	07、15
シャープ	08、16
NEC	09
パイオニア	10
富士通ゼネラル	11
フナイ	14
アイワ	17
三星電子 (SAMSUNG)	18

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が01(ソニー)に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

各社のテレビに使えるボタン

電源ボタンおよびテレビ音量ボタンを使うときは、TV / DVDスイッチを「TV」側にします。



押すボタン	できること
電源	テレビの電源を入 / 切する。
入力切換	テレビの入力を切り換える。
ワイド切換	テレビのワイドモードを切り換える。
テレビ音量	テレビの音量を調節する。
テレビチャンネル	テレビのチャンネルを変える。

ご注意

テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。

AVアンプを操作する

- 1 TV / DVDスイッチを「DVD」側にする。
- 2 リモコンの電源ボタンを押したまま、本機をつないでいるAVアンプのメーカー番号(2桁)を数字ボタンで入力する。

AVアンプのメーカー	メーカー番号
ソニー	91(お買い上げ時の設定) 88、89
デンオン	84、85、86
ケンウッド	92、93
オンキヨー	81、82、83
パイオニア	99
山水電気	87
松下電器	97、98
ヤマハ	94、95、96
ソニーのテレビ	90*

* 90は、TV / DVDスイッチを「DVD」側にしているても、テレビの音量を調節できます。ただし、AVアンプの音量は調節できません。

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してAVアンプが操作できるものをお選びください。

ご注意

AVアンプによってはメーカー番号を合わせても操作できないことがあります。

その他

この章では、本機をご使用になる上での参考として役立つ情報を説明しています。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

- I/⏻ (電源) スイッチのランプが点灯していなければ、電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

映像

映像が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
- テレビの入力端子を間違えている (13ページ)。
- テレビの電源が入っていない。
- テレビの入力切換でCD/DVDプレーヤーの映像が映るようにしていない。

映像が乱れる。

- ディスクに汚れ、傷がある。
- 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性があります。本機をテレビに直接接続しているにもかかわらず画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子への接続をお試しください (13ページ)。

DVDのワイド画像を再生したときに、画像アスペクト比を変更できない。

- 画像アスペクト比が固定されているディスクを再生している。
- S映像出力をテレビに直接つないでいない。(本機とテレビの間にセレクターやAVアンプなどを接続している。)
- テレビによっては画像アスペクト比を変更できないものもあります。

表示窓に5桁のアルファベットと数字が表示されている。

- 自己診断機能が働いている。60ページの表にしたがって対応してください。

画面に英語でメッセージが表示される。

- 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」が「ENGLISH」になっている (47ページ)。

ビデオCDのメニュー画面が表示されない。

- PBC対応でないビデオCDを再生している。
- PBC対応のビデオCDで決められた操作をしていない。(ビデオCDの取扱説明書もあわせてご覧ください。)

音声

音が出ない。

- 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
- 接続コードが断線している。
- アンプの入力端子を間違えている(15ページ)。
- アンプまたはテレビの電源が入っていない。
- アンプの入力切替でCD/DVDプレーヤーの音声が出るようにしていない。
- 一時停止、スロー再生になっている。
- 早送り1、2/早戻し1、2になっている。
- スピーカーの接続を確認してください(15、17、18ページ)。お使いのアンプの説明書も合わせてご覧ください。
- ドルビーデジタルの音声をOPTICAL/COAXIAL端子から出力するときは、設定画面の「音声デジタル出力」を「入」に設定する(52ページ)。
- DTS音声を再生しているときは、LINE OUT (AUDIO 1、2)端子、PHONES端子から音は出ません(53ページ)。

雑音が多い。

- ディスクに汚れ、傷がある。
- CDのDTS音声を再生しているとき、LINE OUT (AUDIO 1、2)端子から雑音が出ます(53ページ)。

音がひずむ。

- 設定画面の「オーディオ設定」の「オーディオ ATT」を「入」にする(51ページ)。

ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる

- コントロールメニュー画面で「AUDIO」を「ステレオ」にする(34ページ)。
- スピーカーの接続を確認してください(15、17、18ページ)。

ドルビーデジタルの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果がかからない

- スピーカーの設定が正しくない(53ページ)。(接続しているAVアンプの取扱説明書もあわせてご覧ください。)
- ドルビーデジタルのディスクであっても5.1chすべてから出力されないもの(モノラルやL、Rステレオなど)もあります。

センタースピーカーからしか音が出ない

- ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもあります。

フロントスピーカーからしか音が出ない

- リアスピーカーを接続しているのに、コントロールメニュー画面の「VES」で「VES A」または「VES B」を選んでる。他の項目を選んでください(37ページ)。

操作

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体との間に障害物がある。
- リモコンと本体との距離が離れている。
- 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
- リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。

- ディスクが入っていない。(テレビ画面に、「ディスクを入れてください」の表示が出ている。)
- 表示窓に「ERROR」と出ているときは、ディスクが裏返しに入っている。(再生面を下にする。)
- ディスクが斜めにずれて入っている。
- ディスクに汚れ、傷がある。
- 表示窓に「ERROR」と出ているときは、CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている(9ページ)。
- 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている(8ページ)。
- 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再度電源を入れ直してから再生を始める(10ページ)。

再生がディスクの最初から始まらない。

- リピート、シャッフル、プログラム再生になっている(38～41ページ)。
- 「リジューム再生」になっている。停止中に、本体またはリモコンの■(停止)ボタンを押してから再生を始める(23ページ)。
- 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面に入るディスクを入れている。

DVDのタイトルを選択しても、再生が始まらない。

- 視聴年齢制限の機能が働いている(49ページ)。

再生が自動的に始まる。

- 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

故障かな？と思ったら

再生が自動的に止まる。

- ➡ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがあります。このようなディスクを再生するときは、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まります。

ストップ、サーチ、スロー等の操作ができない。

- ➡ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。

プレイモードのいろいろな再生(シャッフル再生、プログラム再生等)ができない。

- ➡ DVD、ビデオCDによってはできない場合があります。

音声言語を変更できない。

- ➡ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
- ➡ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。

- ➡ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
- ➡ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。

- ➡ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。

- ➡ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。
- ➡ 表示窓の「ANGLE」が点灯していない場面で、アングルを切り換えている(36ページ)。
- ➡ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

正常に動作しない。

- ➡ 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、電源コンセントを抜き差しして、もう一度動作させてください。

表示窓に何も表示されない。

- ➡ 設定画面の「視聴設定」の「表示窓の明るさ」を「消」または「自動」にしている。「明」または「暗」にする(49ページ)。「自動」にすると、本機やリモコンを操作したときに点灯する。

ディスクが取り出せず、表示窓に「LOCKED」と表示される。

- ➡ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、CD/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-F11
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

自己診断機能について(アルファベットで始まる表示が出たら)

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、表示窓にアルファベットと数字で5桁のサービス番号(例:C 13 00)が表示され、点滅します。その際は次のように対応してください。

サービス番号の 最初の3桁	これが原因です	次のことを確認してください
C 13	ディスクが汚れている	柔らかい布でディスクを拭く(10ページ)
C 31	ディスクが正しく入っていない	ディスクを正しく入れ直す
E XX(XXは任意の数)	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました。	お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の5桁すべてをお知らせください。 例:E 61 10

主な仕様

システム

形式	CD/DVDプレーヤー
信号方式	EIAJ標準、NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性	DVD (PCM 96kHz再生時): 2Hz ~ 44kHz (±1dB)* DVD (PCM 48kHz再生時): 2Hz ~ 22kHz (±0.5dB)* CD: 2Hz ~ 20kHz (±0.5dB)*
信号対雑音比 (S/N比)	115dB* (LINE OUT (AUDIO 1、2) 端子のみ)
全高調波ひずみ率	0.002%*
ダイナミックレンジ	DVD: 100dB* CD: 97dB*
ワウ・フラッター	測定限界 (±0.001% W PEAK) 以下*

入出力端子

端子名	端子形状	最大出力 レベル	負荷インピー ダンス
LINE OUT (AUDIO 1、2)	ピンジャック	2Vrms (50k Ω)	10k Ω 以上
OPTICAL	光出力 コネクター	-18dBm	発光波長 660nm
COAXIAL	ピンジャック	0.5V _{P-P}	75 Ω 終端
LINE OUT (VIDEO 1、2)	ピンジャック	1.0V _{P-P}	75 Ω 同期負
LINE OUT (S-VIDEO 1、2)	4ピンミニ DIN	輝度信号: 1.0V _{P-P} 色信号: 0.286 V _{P-P}	75 Ω 同期負 75 Ω 終端
LINE OUT (WOOFER OUT)	ピンジャック	2Vrms (50k Ω)	10k Ω 以上
PHONES	ステレオ標準 ジャック	12mW (可変最大)	32 Ω

電源、その他

電源	DC 10.5 V
消費電力	13W
最大外形寸法	215 × 60 × 314mm (幅 / 高さ / 奥行き)
質量	約2.1kg
許容動作温度	5 ~ 35°C
許容動作湿度	25 ~ 80%

ACパワーアダプター

電源	AC 100 ~ 110 V, 50/60 Hz
定格出力	DC OUT 10.5V、1.3A (動作時)
最大外形寸法	125 × 39 × 62mm (幅 / 高さ / 奥行き)
質量	約235g
許容動作温度	5 ~ 35°C
許容保存温度	-20 ~ +60°C

付属品

11ページをご覧ください。

* EIAJ (日本電子機械工業会) の規格による測定値です。
96kHz PCM音声の測定はLINE OUT (AUDIO 1、2) 端子を使用。
96kHz PCM音声は、OPTICAL/COAXIAL端子からは48kHzに変換
されて出力されます。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

視聴年齢制限 (49ページ)

国ごとの規制レベルに合わせて視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能のひとつ。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

タイトル (9ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りのいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚(あるいは1曲)にあたる。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

チャプター (9ページ)

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成され、それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。

デジタルシネマサウンド (DCS) (37ページ)

ソニーが開発したホームシアター用サラウンド技術のコンセプト名。従来の音楽演奏用の空間をベースとしたサラウンドとは違い、映画製作スタジオの音場をシミュレートした、「映画館の迫力を家庭で楽しむ」ためのサラウンドになっている。DCSにはさまざまなサラウンドプログラムが用意されている。たとえば、「VES(ヴァーチャル・エンハンスド・サラウンド)」は、フロントスピーカー2台のみで後方に複数のスピーカーを配置したかのようなサラウンドを楽しむことができる。

トラック (9ページ)

CDやビデオCDに記録されている、映像や曲の区切り(1曲分)のこと。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ドルビーデジタル (18、37ページ)

ドルビー社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジック (52ページ)

ドルビー社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

DTS (9、53ページ)

デジタルシアターシステム社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ビットレート (43ページ)

DVDに圧縮して記録されている画像と音声の、1秒あたりの情報量を示す値。単位は画像の場合Mbps(Mega bit per second)で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表す。音声の場合の単位はkbps(kilo bit per second)。

この値が大きいくほど情報量は多くなるが、必ずしも画質や音質とは直接関係しない。

ビデオCD (8ページ)

動画の記録されているCD。

ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」(エムペグ1)を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。

また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。

ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC(プレイバックコントロール)機能を持ったバージョン2.0がある。

マルチアングル (36ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル(カメラの位置)で記録されていること。

マルチランゲージ (35、47ページ)

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

プレイバックコントロール (PBC) (25ページ)

ビデオCD(バージョン2.0)に記録されている、再生をコントロールするための信号。

PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面(選択画面)を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

DVD (8ページ)

CDと同じ直径で、最大8時間までの動画が記録できるディスク。

片面1層で4.7GB(Giga Byte)とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。

画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」(エムペグ2)を採用し、映像データを約1/40(平均)に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声を楽しめる。またマルチアングル、マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

言語コード一覧表 (くわしくは35、47ページをご覧ください。)

言語名表記はISO639:1988 (E/F) に準拠

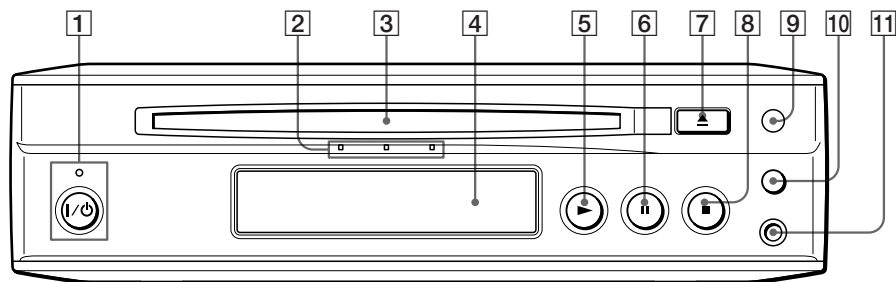
コード 言語		コード 言語		コード 言語	
1027	Afar	1257	Hebrew	1506	Slovenian
1028	Abkhazian	1261	Japanese	1507	Samoan
1032	Afrikaans	1269	Yiddish	1508	Shona
1039	Amharic	1283	Javanese	1509	Somali
1044	Arabic	1287	Georgian	1511	Albanian
1045	Assamese	1297	Kazakh	1512	Serbian
1051	Aymara	1298	Greenlandic	1513	Siswati
1052	Azerbaijani	1299	Cambodian	1514	Sesotho
1053	Bashkir	1300	Kannada	1515	Sundanese
1057	Byelorussian	1301	Korean	1516	Swedish
1059	Bulgarian	1305	Kashmiri	1517	Swahili
1060	Bihari	1307	Kurdish	1521	Tamil
1061	Bislama	1311	Kirghiz	1525	Telugu
1066	Bengali; Bangla	1313	Latin	1527	Tajik
1067	Tibetan	1326	Lingala	1528	Thai
1070	Breton	1327	Laothian	1529	Tigrinya
1079	Catalan	1332	Lithuanian	1531	Turkmen
1093	Corsican	1334	Latvian; Lettish	1532	Tagalog
1097	Czech	1345	Malagasy	1534	Setswana
1103	Welsh	1347	Maori	1535	Tonga
1105	Danish	1349	Macedonian	1538	Turkish
1109	German	1350	Malayalam	1539	Tsonga
1130	Bhutani	1352	Mongolian	1540	Tatar
1142	Greek	1353	Moldavian	1543	Twi
1144	English	1356	Marathi	1557	Ukrainian
1145	Esperanto	1357	Malay	1564	Urdu
1149	Spanish	1358	Maltese	1572	Uzbek
1150	Estonian	1363	Burmese	1581	Vietnamese
1151	Basque	1365	Nauru	1587	Volapük
1157	Persian	1369	Nepali	1613	Wolof
1165	Finnish	1376	Dutch	1632	Xhosa
1166	Fiji	1379	Norwegian	1665	Yoruba
1171	Faroese	1393	Occitan	1684	Chinese
1174	French	1403	(Afan)Oromo	1697	Zulu
1181	Frisian	1408	Oriya		
1183	Irish	1417	Punjabi		
1186	Scots Gaelic	1428	Polish	1703	無指定
1194	Galician	1435	Pashto; Pushto		
1196	Guarani	1436	Portuguese		
1203	Gujarati	1463	Quechua		
1209	Hausa	1481	Rhaeto-Romance		
1217	Hindi	1482	Kirundi		
1226	Croatian	1483	Romanian		
1229	Hungarian	1489	Russian		
1233	Armenian	1491	Kinyarwanda		
1235	Interlingua	1495	Sanskrit		
1239	Interlingue	1498	Sindhi		
1245	Inupiak	1501	Sangho		
1248	Indonesian	1502	Serbo-Croatian		
1253	Icelandic	1503	Singhalese		
1254	Italian	1505	Slovak		

その他

各部のなまえ

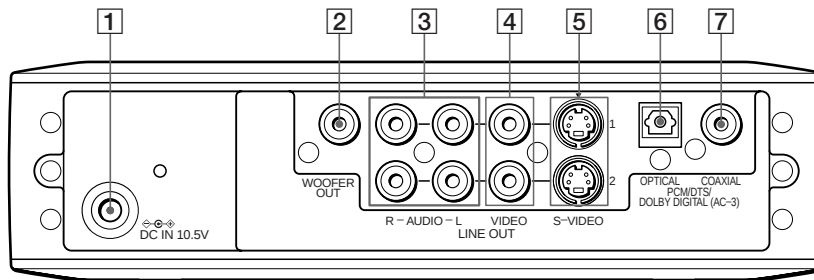
詳しい説明は()内のページをご覧ください。

本体前面



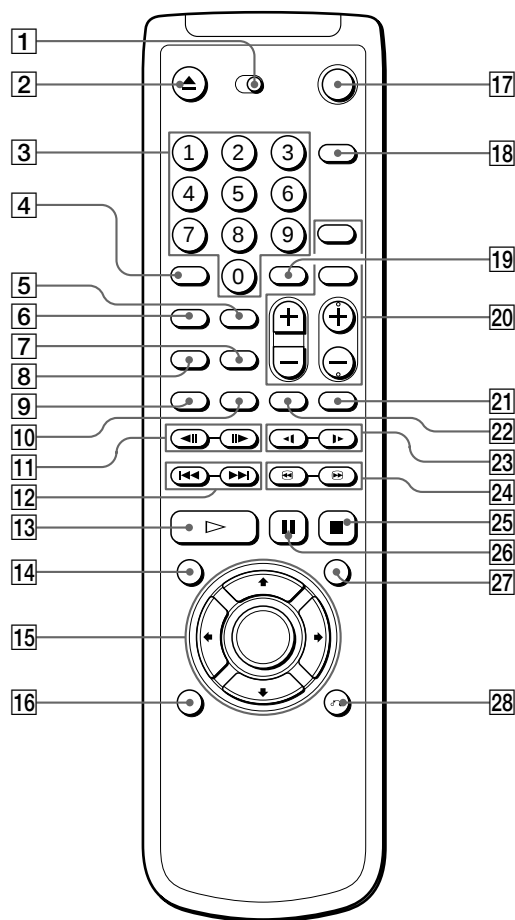
- 1 I/O(電源)スイッチとランプ (20)
電源を入/切するときに押す。
- 2 ディスクタイプランプ (20)
入れたディスクの種類のランプが点灯する。
- 3 ディスクスロット (20)
再生するディスクを入れる。
- 4 表示窓 (26)
再生時間などを表示する。
- 5 プレイ ▷ PLAY(再生/セレクト)ボタンとランプ (20)
再生するときに押す。
- 6 ポーズ || PAUSE(一時停止)ボタンとランプ (21)
再生を一時停止するときに押す。
- 7 イジェクト ≡ EJECT(取り出し)ボタン (21)
ディスクを取り出すときに押す。
- 8 ストップ ■ STOP(停止)ボタン (21、23)
再生を止めるときに押す。
- 9 (リモコン受光部) (11)
リモコンからの信号を受信する。
- 10 ホーンズ レベル PHONES LEVEL(ヘッドホン音量)つまみ (20)
ヘッドホンの音量を調節する。
ヘッドホンの音量は、押してつまみを出してから、回して調節します。調節後は、押し込んでおきます。
- 11 ホーンズ PHONES(ヘッドホン)端子 (20)
ヘッドホンをつなぐ。

本体裏面



- ディーシーイン
- ① DC IN 10.5 V 端子 (13、15、17)
付属のACパワーアダプターをつなぐ。
- ウーファー アウト
- ② WOOFER OUT (ウーファー出力) 端子 (17)
サブウーファーをつなぐときに使う。
- ライン アウト オーディオ
- ③ LINE OUT (AUDIO 1、2) (音声出力) 端子 (13、15、17)
テレビやアンプの音声入力端子とつなぐときに使う。
- ライン アウト ビデオ
- ④ LINE OUT (VIDEO 1、2) (映像出力) 端子 (13)
テレビやモニターの映像入力端子とつなぐときに使う。
- ライン アウト エス ビデオ
- ⑤ LINE OUT (S-VIDEO 1、2) (S映像出力) 端子 (13、15、17、19)
テレビやモニターのS映像入力端子とつなぐときに使う。
- オプティカル
- ⑥ OPTICAL (音声デジタル出力 (光)) 端子 (16、19)
光デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。
- コアキシャル
- ⑦ COAXIAL (音声デジタル出力 (同軸)) 端子 (16、19)
同軸デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。

リモコン



- 1 TV / DVDスイッチ (54)
リモコンの電源ボタンで、本機を操作するのか、テレビを操作するのかを選択するときに使う。テレビ音量ボタンを使うときは「TV」側にする。
- 2 ▲取り出しボタン (21)
ディスクを取り出すときに押す。
- 3 数字ボタン
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。
- 4 クリアボタン (39、40、41)
選んだ数字を取り消すときに使う。
- 5 くり返しボタン (41)
リピート画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 6 シャッフルボタン (40)
シャッフル画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 7 A↔Bボタン (42)
A↔Bリピート設定画面をテレビ画面に出したり、設定したりするときに使う。

- 8 プログラムボタン (39)
プログラム画面をテレビ画面に出したいときに使う。
- 9 音声ボタン (34)
DVDやビデオCDの音声を切り換えるときに押す。
- 10 アングルボタン (36)
DVDのアングルを切り換えるときに押す。
- 11 ◀▶ / ▶▶ ステップボタン (22)
コマ送り再生をするときに押す。
- 12 ◀◀ 前 / ▶▶ 次ボタン (21)
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。
- 13 ▷ 再生/セレクトボタン (21)
再生するときに押す。
- 14 タイトルボタン (24)
タイトルメニューを出すときに押す。
- 15 ◀ / ▶ / ◀◀ / ▶▶ / 決定ボタン
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。
- 16 画面表示ボタン (28)
コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。
- 17 電源ボタン (21、54)
本機またはテレビの電源を入/切するときに押す。
- 18 設定ボタン (44)
設定画面の項目を設定/調整するときに使う。
- 19 決定ボタン
選んだ項目を決定するときに押す。
- 20 テレビ操作ボタン (55)
テレビまたはアンブを操作するときに使う。
- 21 時間 / テキストボタン (26)
表示窓に再生時間などを表示させるときに押す。
- 22 字幕ボタン (35)
DVDの字幕を切り換えるときに押す。
- 23 ◀◀ / ▶▶ スローボタン (22)
スロー再生をするときに押す。
- 24 ◀◀ / ▶▶ スキャンボタン (21、22)
画像を見ながら場面や曲を探すときに押す。
- 25 ■ 停止ボタン (21、23)
再生を止めるときに押す。
- 26 || 一時停止ボタン (21)
再生を一時停止するときに押す。
- 27 DVDメニューボタン (24)
DVDメニューを出すときに押す。
- 28 ⏮ リターンボタン (25、29)
ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

索引

五十音順

あ行

アングル切り換え 36
安全のために 2、4
お手入れ 10
オーディオ設定 51
オーディオATT 51
オーディオDRC 51
音声切り換え 34
音声デジタル出力 52

か行

画面設定 48
言語設定 47
故障かな?と思ったら 56
コントロールメニュー画面 28

さ行

再生
 シャッフル再生 40
 ふつうの再生 20
 プログラム再生 38
 リピート再生 41
再生できるディスク 8
視聴設定 49
視聴年齢制限 49
自動再生 49
字幕
 切り換え 35
 表示 35
シャッフル再生 40
シーン 9、31
スキャン 21、22
スクリーンセーバー 48
スピーカー
 接続 15、17、18
 調整 53
スピーカー設定 53
スロー 22
接続 13、15、17、18
設定画面 44
 項目一覧表 46

た行

タイトル 9、31、62
タイトルメニュー 24
チャプター 9、31、62
ディスク
 入れる 20
 取り扱い 10
デジタルシネマサウンド(DCS)
 37、62
電池 11
トラック 9、31、62
ドルビーデジタル 18、37

は行

背景画面 48
早送り 22
早戻し 22
ビデオCD 8、62
表示窓 26
表示窓の明るさ 49
ふつうの再生 20
プログラム再生 38
プロロジック 62

ら行

リジューム再生 23
リピート再生 41
リモコン 11、54

アルファベット / 数字順

A↔Bリピート 42
A-B REPEAT 42
ADVANCED 43
ANGLE 36
AUDIO 34
CD 8
CHAPTER 31
DCS 37、62
DTS 53
DVD 8、62
DVDメニュー 24
INDEX 31
PBC再生 25
PROGRAM 38
REPEAT 41
S映像出力 13、15、17
SCENE 31
SHUFFLE 40
SUBTITLE 35
TIME/TEXT 32、33
TITLE 31
TRACK 31
TVタイプ 48
VES 37
2.1チャンネルサラウンド 17、53
4:3パンスキャン 48
4:3レターボックス 48
5.1チャンネルサラウンド 18、37
16:9 48

Sony  line

<http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上の
ソニーのエレクトロニクスとエンター
テインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
フリーダイヤル 0120-37-8154

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客さま相談センターへ

●ナビダイヤル……………  0570-00-3311

(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

●携帯電話・PHSでのご利用は……… 03-5448-3311

●Fax …………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00